

寛政之巳年日記
春

女
本

百廿四
共廿



庫女閣内	
三〇七八	和
一二六冊	類
東田	
函	
架	

内閣文庫	
番號	和 30788
冊數	126 (77)
函號	160 136

庚辰



公事方
出勝方

心月洞用書

安房對馬
立派出雲
青山下
脇坂淡路
泊本根大内記
小田切七作
石川左近將監
松平石見

八

新見也
羽子唐唐

心月朝日

一 今又... 御白書院
出御

尾張人納之殿
水戸中納之殿

松平加賀守
松平頼元

右奉改... 先中
被... 先中披露
次... 御座頂氣
具帳卷...

一 紀伊中納... 先中披露

尾列 正帳

松平肥後守

松平掃部頭

松平清心大納言

松平几道權監

松平廣堂和泉守

松平陽波守

松平大守

松平若狭守

松平播磨守

松平伊豆守

戸田宗女正

右田備中守

安房對馬守

水出出羽守

初牧能備守

中多彈正入道

堀田大藏入道

石平政之丞少礼等一人宛所及刀國御持出由礼江
御邊頂戴之具服卷之由洋領之

小十人組一同法し礼中より

但杉平重信の好説を以て之を法中法解の體裁に異岐
頂戴す也 御國の上下を以て御流法に

一 入御の儀人席下若年号の儀中御元中御中御由より

同御元中御法し礼中より

一 御白書院由次間御中御法し礼中より

公意中及氣之志中御元中御元中御法し礼中より

持世異服御幸御法し礼中より

一 分給の由杉戸邊人及式部補由より御法し礼中より

一 御白書院由次間御中御法し礼中より

御法し礼中より

九より

一 在園上邑為乳幼少の儀

御法し礼中より

一 入御の儀人席下若年号の儀

御法し礼中より

法中より

一 御白書院由次間御中御法し礼中より

松平定信の御遺言書
約本根大内記

一 松平定信の御遺言書

口

一 松平定信の御遺言書

右平定信の御遺言書

御遺言書。松平定信の御遺言書。松平定信の御遺言書。

松平定信の御遺言書

一 松平定信の御遺言書

松平定信の御遺言書

一 松平定信の御遺言書

松平定信の御遺言書

一 松平定信の御遺言書

松平定信の御遺言書
松平定信の御遺言書
松平定信の御遺言書
松平定信の御遺言書
松平定信の御遺言書
松平定信の御遺言書
松平定信の御遺言書

松平定信の御遺言書

松平定信の御遺言書

松平定信の御遺言書

松平定信の御遺言書
松平定信の御遺言書

右年以由... 吳服... 海...
右年以由... 吳服... 海...

松平大藏大輔

右年以由... 吳服... 海...

洋... 廣間

廣御

為

松平安藏

松平出羽

有馬中務大輔

上杉澤山大納

作竹右京大夫

松平大納言

伊達左衛門

松平大納言

右年以由... 吳服... 海...
頂氣吳服... 海...

有馬大納言

右年以由... 吳服... 海...
廣...

廣...

石牟以の由後
清原朝長と美上と於源氏河内清原氏と名駒本根
大内記

一 龍田代清原氏

松平豊後也
松平以子代
松平上總介

石田氏
清原朝長、清原朝長と美上と於松平と河内清原氏と名駒本根

一 清原朝長、清原朝長と美上と於松平と河内清原氏と名駒本根

伊賀清原
清原朝長
清原朝長

三家

「新田信濃也」
「横瀬渡河也」

京都清原
清原朝長
清原朝長

「中條山城也」

日光清原
清原朝長
清原朝長

「六角新田也」
「美上長門也」
「有馬長元也」

石牟以の由後
清原朝長と美上と於源氏河内清原氏と名駒本根

中後

一 今更月 由佳採

大納言 柳西拾得 入り

入

正月二日

一 今更月 由佳採 白書院

出清 櫻之間

立御 下石 上之 意 後 之 向 大 席 下 下 志 采 采 及 之

向 之 且 小 意 後 採 之 向 送 几 柳 采 式 采 備 奥 午

大 膳 采 井 伊 之 采 備 家 采 備 店 何 建 也 由 之 刀 目 採

采 之 意 由 采 之 采 之

入 御 之 意 御 白 書 院 由 采 由 採 採 子 采 中 采 之 由 采

居 採 立 御

上京 下京 大坂

堺 奈良 伏見

三吉 浪江 奈良

采 之 采 采 采 采 采

由 采 何 采 采 也 何 中

右之書一周年、休年、
入御

一了石之官為氣初か之気、
知し、松抄、
同得稲葉丹後

了石之官為氣初か之気

大松抄

松年一子

出、
織田

織田

但場

柳生内膳

丹後

松年實之

日知り

大久保常日

大是子

一今九時、
成

同日喚

一今六日分前入廣間

出御清中候

清中候清中候初沙紀式之

相傳之文書寸分前

入御

三

水戸中將殿

三

松平肥後守

友堂和泉守

松平隠岐守

松平出羽守

有馬中務大輔

松平若狭守

中多澤正太郎

堀田大藏大輔

出御

松平遠江守

奥平大膳守

松平昌高守

中多澤正太郎

正月廿日

一 今六日打寺より由直坂下門心湯直有
之為 成心打寺より 還御

一 明六日例年寺社法礼あり

由物敷

御
小務 十二日
新務 二日
志務 二日

服

由小務

林 肥後

小務 五日

門 石

村 尚

津尾 後

門 石

由書院
内為甲斐

筒井 年

内田氏

一今口寺又分御白書院

出御

一東二卷

増上寺方丈

右年改由礼中一連為在由卷不盡披露

小岩川

一東一卷

傳念院

新田

口

大光院

飯沼

口

弘經寺

清原

口

誓願寺

西ノ保

口

天徳寺

右因寺今之長光寺

右因寺法堂之屋列

一東一卷

東服院

法揚院法堂之屋列

口

元院

中源院法堂之屋列

口

景勝院

天英院法堂之屋列

有...院

院 蓮 院

推...院

佛 心 院

文...院

法 家 院

安 立 院

安 立 院

圓 惠

秋 天 寺

涼 川

本 誓 寺

西久保

大 蔵 寺

増上寺

秀 海

口

家 少

増上寺

淨 運 院

増上寺

観 智 院

口

常 行 院

右...
方人...
増上寺

口 口 口 口 口 口

口 口 口 口 口 口

二本一毛

合地院

護持院檀信心

一本一毛

品川

東海寺

池上

中門寺

一本一毛

右同引是入今茲本出礼中上

湯宿

靈雲寺

右同引出礼中上

一 大座間 渡御法上候 御念度

獨礼之宗社出候

右之九宗之在是宗之重年改之出礼中上之返敬
御下候之 出御座間

寺社出候

右之五宗之重一同出礼中上

入御之良御向書院出候

八王子

子人改

伊豆山

五本之入

山中之入

右進持前二重一田清礼
入御

叶波三々

叶場次

「新語部文書」

西九叶場次

「村松日記」

叶場次

「西見日記」

叶場次

「大武」

右進持前二重一田清礼

御系初祖海公身系一右進持前二重一田清礼

叶波三々

二重一田

叶場次

右進持前二重一田清礼

御系初祖海公身系一右進持前二重一田清礼

叶波三々

叶場次

「大武」

「西見日記」

右進持前二重一田清礼

一 叶七日也例年卷末之由致致云々

正月七日

江戸間

伊勢守御
大御所御
二つあり

前田信濃

京都御
大御所御
二つあり

中條山城

日光御
大御所御
二つあり

宮原長門

今接取
御二

今接取
御二

今接取
御二

石丸御
御二

但津御
御二

一
今口
御二

水之家

松平加賀

滑法

松平新

物部

松平大角

松平豊後

右高日、清礼相語、口附

介

一 高日為出、後儀、紀伊、後名、差、出、之、於、磯、前、
謁、對、焉。

一 右國、身、德、川、之、真、殿、
廊下、謁、同、人

諸十段
付時二

口

諸十段

内之、神、皇、尊、

中川、和、泉

卯、天、神、皇、尊、

松、垣、合、人

内、高、年、皇、尊、

八、幡、中、務

伊、勢、山、田、三、方、尊、

二、日、布、左、近

口

右、高、日、身、德、川、之、真、殿、
廊下、謁、同、人

内、高、年、皇、尊、

松、平、右、京、左、近

戶、田、國、膳、

柳、原、右、京、左、近

三、日、布、左、近

松、平、右、京、左、近

内、高、年、皇、尊、

松、平、右、京、左、近

石、川、日、向、

是、部、内、膳、

根坂 草書
秋田 山城
松平 河内
酒井 安藝
福地 拾津
酒井 石見
内 彦 攝山
中 多 隨
三宅 政
内 彦 高
丹 羽 世
松平 玄 彦

秋月 右 系亮
塔 右 彦 尉
志 山 道 河
九 鬼 加 賀
塔 丹 波
毛利 左 衛 門
田 村 左 衛 門
木 下 肥 後
南 郡 伊 勢
関 東 鶴 翁
市 橋 繁 山
森 作 治
片 桐 石 見

一柳左系之
織田丹後
織田豊前
松前大炊
阿蘇豊後
松平肉焼
水神頼家
善山良徳
古井山城
大谷急原
大谷丹後
阿蘇豊前

酒井牛賤
松平大隅
渡邊中務
稲垣南岳
酒井頼家
内田泰山
井之山城
井之石見
堀式部少輔
酒井柳菴
里山
松平若狭

景下流石在色

内及曉山
松年院後
小堂系傳後
為寺及系元
寺井能也
清淨他馬
福壽加如
九飛松翁
物也

右年以爲此後使以由今日因取上於
松之岡獨古不他馬

但此景下流石在色

一右岡

大納之極右之岡之流石在色今日因取上於
後溪間画九曲若物此内勝正家來信九

正月八日

一今朝

巖有院極
後明院極
御靈前
御石代松年伊豆

一 宿中より宿屋へ入る日也 城守

正月九日

河原

右へ去りて日清山へ登る

清成は意以て村尚の所へ下りて北山に宿屋を築き居り
對馬の所へ下りて若年より中宿に

中宿

少保安藤

右へ去りて由良殿元合の所へ下りて北山に宿屋を築き居り
對馬の所へ下りて若年より中宿に

中宿

少保 町人

右へ去りて由良殿元合の所へ下りて北山に宿屋を築き居り
對馬の所へ下りて若年より中宿に

一 正月十日 宿屋に宿る

源徳院 御宿所也 御宿所也 御宿所也

又時之 宿

一 宿中より今日も也 城守

正月十四日

一 今事... 廣河... 龍臺上...

大猷院 椒
崇有院 椒
清明院 椒

御其茶

常憲院 椒

御靈茶

有德院 椒

源德院 椒
至公院 椒

御位牌所

御系譜九打守也

還御

一 還御... 御位牌所... 御系譜九打守也

一 右因... 御位牌所... 御系譜九打守也

一 右因... 御位牌所... 御系譜九打守也

一 右因... 御位牌所... 御系譜九打守也

一 明... 御位牌所... 御系譜九打守也

一 傳中と病氣使人自の心と城

一 井伊之助と傳中と使人自の心と城

正月十日

一 今更何し由は指らぬし由直に為る 威人の
上は説の事と天祐相傳に付る由定し
作也

一 今更何し別傳は志書院
出御

傳中

中更何し如也

松村駿河

中更何し

上屋長之齋

中更何し

林 友之丞

中更何し

玉虫 公房

石松 御前

傳中と御前と相傳る由語は松平出御
物事傳中と中多傳は天祐の場は大蔵左衛門

御目見次、由邊代大石 御目久平、由勝子方。

為成 立御於御目間、松平右衛門

御目見、その外、由勝子方、山吹間、第一、同、越、る、歌

治元、由、参、る、業、業、同、細、歌、治、右、勝、子、方、在、在、上、

而、一、回、御、目、見、相、流、る、連、歌、間、

濱、御、此、良、由、連、歌、吟、く、良、別、行、由、席、下、を、り

命御

一、御、目、見、後、於、席、に、由、流、る、由、御、由、酒、下、し、且

御、目、見、上、し、る、に、も、由、併、由、酒、下、り、

一、御、連、歌、由、今、を、り、

賊山河連歌

松まつ

あけしきをつし子、行のま

昌栄

夢も世深に、露、於、く、庭、御

池水、く、垂、り、尾、が、り、く、日、此、揚、り、

の、そ、む、岩、根、乃、く、水、は、れ、く、り、

風、は、り、小、波、は、ち、や、解、ぬ、く、ん

か、り、く、ま、が、む、く、あ、い、じ、く、苦、

懐、き、く、く、文、く、月、く、山、路、に

あ、り、い、や、く、く、あ、る、馬、や、の、秋

昌栄

昌栄

昌栄

昌栄

昌栄

昌栄

昌栄

昌栄

昌栄

一ノ子 誠之出跡 〇〇〇〇〇〇〇〇
つり 舟も 〇〇〇〇〇〇 浦浪
吹す 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇

六 御一巡

御系譜 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇
六角 〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇
戸田 〇〇〇〇

〇〇〇〇 〇〇〇〇
板倉 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇

石之 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

一 井伊 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

正月十二日

一 今期 増上寺

権信院 権 〇〇〇〇

御名代 〇〇〇〇

二 龍一石

龍一石

尾連殿使云

成瀬大内親

水戸殿使云

右田新左

紀伊殿使云

長谷川新右

水戸中殿使云

尾崎左衛門

右之丞殿は身力向清持殿より上之於遊獨之間
謂對馬也

他是初名

一 石田氏は身連川を築より 中城殿より頼向之於

中城殿廊下遊同人

一 右田氏

御家祿上尾連殿水戸殿より由同記伊勢水戸使殿
より使を連川を築より 中城殿より頼向之於

遊獨之間謂對馬也

但尾連殿使云
御家祿上尾連殿水戸殿より

一 明中之日西首為御弟より由同記伊勢水戸使殿
より使を連川を築より 中城殿より頼向之於

御家祿上尾連殿水戸殿より

一 井伊氏は御弟今日も也 城云

二月十一日

一人之... 西首... 還御

日光... 御勅

田中... 川崎

三公子... 助

右... 日光... 社...

出... 伊...

日光... 御勅

前... 八...

御勅

右... 日光... 社...

日光... 御勅

前... 八...

御勅

右... 日光... 社...

日光... 御勅

中... 山...

小野一

還御ツテ

御
小白
鳥石
志
精
石

中
野
村
忠
彦

正月十日

一 今胡増寺

文眼院縁 御霊屋

御名代戸田家女正

一 明中日月華出仕...

一 井伊之部女補今日も也

正月十日

一 今胡山王

御名代太保...

一 今胡寺...

出御

祖子代

一末一平

口

口

心助十之

山王神

極村後河

年路由也

觀現院持信

極持夜列高

昌泉院

源川

光樹王院

口

靈運院

山王神

樹下日向

口

口

一末一平

口

口

口

極持夜列高

伊次丸京

神田神

光壽英地

津川神

大系院

遠州

小睡家

足利

学授

後凡

條源寺

出波二

右一町十二日西多日西節日

御成之旨多村同日多下在村右多節多節多
同八日波之若多中節多

出波三

杉本龍後日使

花村忠之隆

堀田豊之丞也

實之承以承該家宗國丸波田用之使
堀田折津之守之田用相勤り使お在り
内勤之勤り之勤り之勤り之勤り之勤り
お入由波はびる之勤り之勤り之勤り之勤り

り之勤り

右折新番不有漏伊之書分相勤り

一 今之御之由使相勤り

大綱之御西折揚り之為 入

丁綱目

之浦長門也

右多折之為由折之勤り之勤り之勤り之勤り
由多折之勤り之勤り之勤り之勤り之勤り

一 井伊之勤り之勤り之勤り之勤り之勤り

〇

市島

中山源之助

志記

〇

三柳外系院

右日光院堂社由後力由用之義以多下之於
此右堂經記部取伊古之戸後之場田行津島等

此圖

源色之、院

右之飛鳥地由用之戸者九段之戸
字女心書相後之

三柳外系院

室 院

〇

〇

佛心院

〇

觀沙坊

智名胡然系
全別伊守信信

香海院

城島山法社

松田助解由

〇

右之飛鳥地由用之戸者九段之戸

一 明十七日印書山 清宮 御系請書田法指

御系請書田法指

御系請書田法指

一 昨十八日渡出延山為 威身由佐拾六付
作

正月八日

一 今迄打等身出石坂由川渡出有為
威身由守むる前 還御

時略之

右一昨十六日渡出中子人の
上迄打等身出石坂由川渡出有為
威身由守むる前 還御

對延山渡出 若年志中渡出

由中
松平元遠

小笠原源次前

西九中

依中紀

松極清

南紀

水野 辨六

由書

中系

平助

白丸

酒井

本村次前

宮川 伊織

今迄打等

西尾田

山崎川之宮前

大田

天正伊豆

竹村源之節

山崎

作中六十

山崎

山崎

右以射子相勸以次第之於源國同人之後
侍在回家

由流國

石川六助

三浦保次郎
西尾田

西尾田

知本長六郎

山崎

友成源三郎

山崎

辰巳兵衛

上野勘三郎

筒井源六郎

村井右衛門

西尾田

大塚七三郎

治部

右内河津寺之元派お勤身以下之於坊力有立元
出雲中後之

中務負

御
北宮之御
難物之御

昭村尚承

正月十九日

中多源公大湖

右内河津抄録也 城於神田内尚光申

一今内河津抄録也

大納言源大廣内西田源より入

礼部院之末後傳

澤運院

玉房卷

總寧寺

紙

就穩寺

昌田

大中寺

幸品

河原寺

比陵二

門口

門口

門口

門口

日記

是利
學校

日記

甲名
寺林寺

右田原寺下宮於柳之岡對馬中後

河波二

此寺在河波谷
平谷寺

河波三
池十段

此寺在河波谷
澤真院

河波三

此寺在河波谷
八木惠蓮

右田原寺下宮於柳之岡對馬中後

正月廿一日

一今期

大藏院

御靈

有池院

御名代松平伊豆

正月廿一日

一松平下總守忠以子織部忠成回祿十二月廿一日

一 明寺口増上寺

台徳院棟

御霊屋

有章院棟

信信院棟

御冥室

御系詣由儀指

不詳寺之 御所

一出得今自心也 城

一場同按洋寺弟岐今自心也 城

正月廿四日

一 今朝上野

孝恭院棟

御冥室

御名代 京控備前也

御座間

日光御所
石佛之御所
二つあり

京系長門也

石鏡御所

御所

一 今中身打寺守中ノ大廣間出也之龍産ノ増上寺

台徳院極
文昭院極

御靈屋

有章院極
淳信院極

御大前

御系譜九中書

還御

一 還御以後何御抄原由之方也中書及中書
之方也之於御問御對也

一 石段の事は御用書に載り 山城御出於中書に席下

御同人

一 石段の事は御用書に載り 山城御出於中書に席下

之方也

山城御出於中書に席下

一 石段の事は御用書に載り 山城御出於中書に席下

山城御出於中書に席下

日光御出於中書

石段の事は御用書に載り 山城御出於中書に席下

山城御出於中書に席下

一 石段の事は御用書に載り 山城御出於中書に席下

正月廿五日

一 去平之日西高為節口之為

藏公以

御奉之白名御料理也

御奉之由之由之唐流

湯治物也傳之松平右京亮也唐流代八石厚之因治

也奉之者兼之因治松平右京亮也

城於

御奉間

御奉間之由之由之料理節

希世間

松平澤平少滿
松平右近將監
松平大學次
松平操進也

次

松平武永大輔

次

松平紀後也

次

松平隠次也

松平若狭也

小次間

由唐流仕切

同日

同日

牧能傳之也
松平右京亮

由唐代大石

同嫡子也

松平哲也

柳之間

厚之問

右院席之清神記之序

厚之問法
中書省書尚
弟之問經教法
大々婦子云

松平指云

右之問見大因分合所也 城之指城在東山寺也
今日 御奏之書由神記之下也 御國之云
作分之指事之問經教對之序也

一場指席之為氣收之目也 城

正月廿六日

一 今朝上御

主之院御 御天云也

御石代公保豐之云也

一 明廿日

御奏之書由神記之序也 御石代公保豐之云也 城

明廿日

松平指云
松平石系云

御書院指

松平若校也

大廊下

松平源平次源
松平左近将監
松平大守次
松平播磨守

帝鑑間

由播代人名
同端子
松平哲公

厚之間

厚之間法

第之間

厚之間法
由美名子
第之間法

中之間

同嬖子

由美名子

右於席へ湯礼申上へ湯乞申

松平若狭也
名代若狭九条

由來有る湯流船もろく申打續
之流。此等而申申女以る入用多
市中在く。此等雜其方の湯乞申
依く合式を其方の湯乞申。仰申
返納。此等申申申申の湯乞申

右於波之間を申列。此等申申申申申申

西書院書以

松平信濃公

右高之月申夷報地出之云 作身之云 於石手部念伊豫若年申出之云 出雲云 中候云

西書院書以

安房伊豫公

西書院書以

水見伊豫公

近後淡路公

右騎馬坊子掛云 作身之云 於松原間因入中候云

西書院書以

淡路相模公

河内常陸公

西書院書以

多門孫吉公

右云 作身之云 於瀨河間對馬云 中候若年若年

竹丸

西書院書以

山石玉吉

山本半八

西書院書以

右於奥云

作身云

右以爲出札也

撤於

御前

御封款

一 楊中細之殿

正位叙後二位大納言

為市子高年、而、依亮之也

右之也

仰出

奥出右子

秋山松之丞

西尾兼助

御前、是、出、松、相、助、也

奥出右子見書

西尾奥出右子

秋康幸就

右於奥也

仰出

一 今、出、右、子、由、出、也

御前

撤於右御前

入

一 御前、出、右、子、由、出、也

御前

御在間

御代御在
御代御在

戸田宗女正

御代御在

御代御在

今二于於
御代御在
御代御在
御代御在

石 御代御在

御代御在
御代御在
御代御在
御代御在

一 今二于於 御代御在

出御 御代御在

御代御在
御代御在
御代御在

御代御在
御代御在

御代御在

御代御在

御代御在

御代御在

御代御在

御代御在

御代御在

入隆
主卷

二卷一巻

久遠寺

豊一岡

辛卯

遠岡寺社

一
高日為由後依紀伊越後後名之者却於大席下
對焉

尾徳教家宛

成願年八月

有
横子代殿年月官於大奥

御期款の
對焉
御出の
寺
寺
寺

全三三万

松平右京三

右
同
人
合
帳

由中條訂

日光山

御
股
又

右
高
月
為
由
祈
禱
料

敬
啟
伯
宗

右々今日西九のおり

大納言御少輔 御国見正 作事為出札也

城控御目録御所御情也

尾田殿後

山沖法信也

石々横子代家生月宮控大兵

御封顔の巻言正 作事為出札也 於御所間

御出御身候也之公礼

一 石田の身

御座都石使と云ふ此礼也 一 於御所御出御

也右御井國情也

一 今御所之由法指と云ふ此礼也 西九と云ふ

成六出御也 邊御

正 月九日

一 今御所上寺

有亭院御 御出御也

御名代と云御所也



二月河内書

松年伊豆也

系於備前也

古井大炊頭

曲淵甲斐也

根尾記之也

柳生之也

石川貞通也

由勝也

公事也

淡々之久花
大平人次郎

二月朔日

御座間

伊藤清成
八納之儀清成行

花田信濃

右執府 御見

一 今更時御白書院 出御

甲老御札
同御渡
久能御老教
同御渡

右御頂戴御座

日老御つ流由不方
御座

凌雲院僧正

由石口目録
三卷一卷

右 御見之字家披立

右は持系公の御代に於て
此の如き名を著

〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

			水戸 御寺						
漢	福	吉	林	之	中	就	美		
西	吾	祥	光	途	勤	藏	妙		
院	院	院	院	院	院	寺	院		

〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

一
朱
一
下

東	等	池	唯	觀	春	劫	松	津	
湖	光	音	王	成	就	長	高	梁	
院	院	院	院	院	院	院	院	院	

於由産生廊下詢同人

一 雪路

御産柳由主事の連川と云ふ水戸中野にあり
徒急に 此城跡なる御産地は同様に御産

也尚書居是地紀之也

但尾邊地よりハ
流産地は此の由事なる也

一 明二日濱由産之為 成り山は採石の時

作也

小田川

一 今上野城より分り坂由門を渡由産之為

成り山は採石の時

還り

今保山城也

分於及糸毛

上方大和也

永井信濃也

右之由秋大坂如書

作事多於彼同先中列於

伊豆山平流

先礼物之
前因年久雨之...

小三信
逢吉也

福村重吉

石之 作... 於... 河... 入... 口...

一 簿... 城...

作物教

御 雜務司
小野 景

照

此... 此...

雜務司

龜井 後河

三務司

林 紀後

雜務司

山名 丹波

此...

村司 松平 重平

此... 此...

二月二日

時辰二

二年...

小林 院

身定

久遠守

右山帳外下台松柳之間伊豆守中候

支配

比永少次郎

全九

右長河新島由因之紙外下台松柳間
同ノ下候ノ事持由系守侍在

一 傳申者今日也 城守

一 城守掛御守弟使身今日也 城守

二月旨

一 今日御出候御事

大納言権西松瑞より入

一 徳川權子代初本年川島門名所也 城守大奥

公方権 大納言権 御老権 御對款

御子自山腰拾 御召席候 代合手致 正名

但 大納言権不沼勢不秀権 御老権不中不記之

伊予金澤代
編修小巻

之於二子也

徳川横子代殿様

珍本 卷十所

尾張殿様

澁川権平所

石横子代殿様

城守殿様

澁川同調伊予

他

久納重徳 横子代殿様 編修之書 由金澤代 澁川権平 二所之
西九 以使者より上之也

徳川横子代殿様

珍本 卷十所

此本
一様

尾張殿様

澁川権平所

伊予金澤代
二様
一様

右田の分書上 権国席 澁川同調 尾張殿様 内記

尾張殿様

成瀬半人示

横子代殿様

沢井 左衛門

尾張殿様

徳川九所

湯本 浪江

武井 宗元

山守 甚多

編修

17

仙後二ノ

口 北

寺西忠宣卿
内廷 熊茂
加茂 昌三郎
神保 房九郎

口 光勤

本 秋 藏 左 衛 門
本 秋 茂 十 郎
上 把 新 八 郎

口 奥 藤 隆 一

淡 色 房 左 衛 門

口 目 録 次

一 熊 沢 又 八

右 横 子 代 後 佐 佐 公 下 左 様 同 席 任 意 時 候

他 相 傳 之 儀 必 須 照 舊 万 一 違 誤 任 切 之 事 記 之 可 也

口 國 後 使 使 志

平 田 國 時 右 衛 門

口 出 見 使 使 志

田 中 人 右 衛 門

右 藤 原 公 下 左 様 御 同 席 任 意 時 候

口 國 後 使 使 志

平 田 國 時 右 衛 門

口 出 見 使 使 志

田 中 人 右 衛 門

御 意 傳 之 儀 必 須 照 舊 万 一 違 誤 任 切 之 事 記 之 可 也
御 意 傳 之 儀 必 須 照 舊 万 一 違 誤 任 切 之 事 記 之 可 也
御 意 傳 之 儀 必 須 照 舊 万 一 違 誤 任 切 之 事 記 之 可 也

右 藤 原 公 下 左 様 御 同 席 任 意 時 候

源一

時後三

右三二日濱市倉

御成之以前多村尚且以下迄於中右等部迄迄御成
伊豆之平原之若草等中仍存

中道之序

右之他人今朝之序之由礼也

西條新調允中

中道記

永井大和守記

松平白中

由使内各甲也

水戸中將殿

城於由白事院

水戸殿後

石原之記

右中將殿。今朝以

上使由倉之序之由礼也。出於源氏間
調伊豆也。

中道之序

上使由倉小室

松平加賀也。

右之他人今朝

他乃由中

石原殿後

公方也 二松平也

伊豆之序 一松平也

淑雅堂様へ 一札

右へ在り人妻、女使主の事等上へ

一 御申事今日也也 城守へ

一 堀河持津事今日也也 城守へ

二月廿日

三ツ子御分
二札子之
大御方御分
一札子之
御座御分
一札子之

御使書及封書
大御方御分
御座御分
中山長門へ
御座御分
加茂勘助

淑雅堂様へ
一札

尾池人納之致

三ツ子御分
二札子之
大御方御分
二札子之
御座御分
二札子之

書及封書
御使書中出相
中山長門へ

徳川懐子代致

三ツ子御分
大御方御分
御座御分
一札子之
淑雅堂様へ
一札

書及封書
水産出相
中山長門へ
加茂勘助

平 聰院様

右へ懐子代致昨日初日奥へ由也へ 城 御封致

相澤身人今朝也

尾張大納言殿

右子代殿明日初日大真也

公之儀 大納言殿 御對殿等之儀候為

右御身人相澤身人今朝也 上使申候候為

後子代殿也 右申候候為

濱田左衛門尉之儀也 御對殿等上之候由白

書院西條殿御允中

酒川隆子代殿
後子代殿

右子代殿初日大真也

右子代殿初日大真也

但澤身人今朝也

尾張大納言殿

小池清路也

右子代殿初日大真也

洋儀由北等今朝 上使申候候為

濱田左衛門尉之儀也 御對殿等

御對殿等 御對殿等 御對殿等

右子代殿初日大真也

但澤身人今朝也

尾道使使云

津田九郎云

今朝 上使云云 至尾道後 津川物
由礼

檀子代使使云

荒川 之馬

今朝 上使云云 津川物
由礼

尾道使使云

津川 之馬

御座極々 尾道使使云 檀子代使使云
今朝 上使云云 津川物 由礼 尾道使
至尾道後云云

淑姫云云 檀子代使使云 由礼

檀子代使使云

其形 云云

御座極々 今朝
上使云云 津川物 由礼

右於 淑姫 云云 檀子代使使云

檀子代使使云

御座極 淑姫云云 檀子代使使云 由礼

檀子代使使云

秋 日 心 腦

水 中 檀子代使使云

心 及 中 之 意

右之町見懐之代交控大奥初
御内之由所公由也
此等前之於同席御同人

去合肝黄

秋山十志
卷之三并左系

右之町有氣頼之色是公行黄

御内之由所兼之同系控由之由中黄

上之町控由之由

波五及

是 監物

右之町有分之下之控由之由同水神之由之由中黄

上之町控由之由

松平紙之由

由之由

右之町有分之下之控由之由

他及七所由也

一 御中へ今日也

一 御内控由之由今日也

二月六日

中多御心入御

右如河内横塚也 城控河内河内河内

- 一 德中寺 今白也也 城守
- 一 増田松津寺 今白也也 城守

二月廿日

御座間

戸田宗女正
牧池備前守

右通、系部、後足守 御座間
但伯常、於池用紙屋 御下知状土御座

音達院土御座

大玄之内

山内惣代 慈光院

日光山惣代 養中院

之品院惣代 松高院

久能山 德音院

御座二
御座三
御座二
御座三

今三三夜
今三三夜
今三三夜
今三三夜

右在帳分下之松柳之間伊豆と申渡之

淑明院御出侍

石原 三右衛門

實子通成

同 三之丞

如父時
淑明院御出侍

右充要分頼之存御居之

伊豆家督之相違

三之丞と下重全於遊通間同人申渡之

治持殿

乙原 三右衛門

尤幸奈以迄之相勤以分御居多、下之於松
火之間若幸奈申御出京持備示与申渡之

雜島山

妙壽院

法華教
時辰二

右在帳分下之松柳之間七井大炊次申渡之

一 傳中より今日も申之 城守

一 塔田持渡より今日も申之 城守

二月八日

一 今朝上申

淑明院御 御出侍

御名代安友對馬也

一 今朝秋草分

御名代白河甲斐守清盛乃一腰巾馬行共令三枚
御進納

松平紀後也
松平隠成也
松平若狭也

石為河津抄録也

城津河津書道通詞允中

頼吉地佐用元坂

立花出守書

石於真口 仰

一 備中守高純使入白也 城

一 堀田折津也今日也 城

二月九日

尾道家後分

山沖淡路也

美野一

右々今日於淡路守之相合分は元上之於御崎間
詢伊守也

一 宋女正介朝京形...
一 堀田持清... 今日... 城...

二月十日

西宮

曲淵中...

西宮

野原源八郎

あり

淑姫君横御入楽田用... 御守之...

先中列在伊豆... 後... 若年...

西宮

村上...

西宮

遠山...

西宮

長坂...

右... 信濃... 汝...

... 相勤...

淑雅系抄由因明
作身勤由因大柱儀
三人扶行由是云云以下

小書信
瑞田之陪但

二瀬昌行派

右於御酒間立花出雲也列在系抄儀前中
後

一月並、詳叙之、林大守以訪之

但伊豆之井伊急須浦出席

一堀河御津也今日也也 城守

二月十日

由是後由是

由是乃一様
由是乃一様
由是乃一様
由是乃一様
由是乃一様
由是乃一様
由是乃一様
由是乃一様
由是乃一様
由是乃一様

一橋大納言殿

御前
堀河御津也

右於 御酒間 御酒間

徳川氏御前

由是乃一様
由是乃一様
由是乃一様
由是乃一様
由是乃一様
由是乃一様
由是乃一様
由是乃一様
由是乃一様
由是乃一様

右於 御酒間 御酒間

御酒間御酒間御酒間

徳川氏御前

右ノ一橋ノ領地ノ民衆ノ領地ノ礼ノ事ノ上ノ領地ノ礼ノ事ノ上

徳川氏領地ノ領地

飯田領地

久田領地

右ノ領地ノ御領地

右ノ領地

右ノ領地

右ノ領地

右ノ領地

松田伊豆守

作左衛門

竹尾右平

今ノ領地

今ノ領地

右ノ領地

右ノ領地ノ御領地ノ事ノ上ノ領地ノ礼ノ事ノ上

徳川氏領地ノ領地

水鏡源流

大崎領地

今ノ領地

右ノ領地ノ御領地ノ事ノ上ノ領地ノ礼ノ事ノ上

右ノ領地

細見領地

岩瀬領地

岩瀬領地

一 寄分の御御控極市之方より連日と致水守申控候。

由城附之れは相伺、此由是前席下御伊等。

但之令同書

一 右同所々

御奉極、由同所々、由城附之れ前伺、此極伺

之同所由同所々極大同伺

但尾極候、
御奉極、由同所々

御奉極、
尾極候

御奉極、
尾極候

尾極候候

此極候候

右之明九日漢由是之致合の分と致候、此同席

御由是店同入

一 堀田御津より入る由也、城々々

二月十二日

一 今朝詣上寺

信信院極、御奉極

御奉極、右同所々

御奉極

牧野備前守

右明日京師發遣身

御目見

小宮信

他右御目見

右後圓身

之宅瓊苑

右之 作身之於燒火間若年分中出之於京師
備前守中後

一 明十二日濱田在之為

如以出居燒火間

作身

一 堀田持津守病軀使今日也

城

二月十二日

一 今六時坂下由門へ濱田在之為 成

二 此中守身

還御

上後松平源之丞

中宮一落

松平豊之丞

日 日 人

松平上總介

日

石倉一落

口

婚姻 由礼

山口 周防 寺

由礼

由礼

板倉 伊豫 寺

河部 後河 寺

戸田 大炊 氏

山口 周防 寺

井上 寺 伊 寺

福系 播磨 寺

有馬 伯 後 寺

井上 寺 後 寺

高溪 由礼

板倉 伊豫 寺

幸始 由礼

新島 院 方丈 健信

大雲 院

二宮 鳳 采 寺 志 云 寺 氏

醫王 院

口

城 石 上 晴 社 日 蓮 行

能村 寺 中

入院 由礼

京

誓願 寺

徳目 貝塚 卜 寺

真教 院

第 音

二 東 一 卷

一 東 一 卷

高橋 年 二 抄

一 東 一 卷

大鶴 織 二 卷

一考一考

出勝子り

系上
振別

多田院

今多岐孫成
時岐三孫成

二多岐孫成

大由孫成

小笠原道成

長谷川丹波

諸子及
時岐二

口

多田院

出次一同

多田院

空圓寺社

紅白編局二十卷

口

也時所筆

三木清石

多田院

口

小笠原道成

口二十卷

口

時岐孫成

多田院

出納ノ接

二多岐孫成

多田院

諸子及

多田院

入御ノ長 御通子

御通書院出勝子

心書

石上宮守御書

御

甲子
瀬川

堀内

一 尚日由禮儀紀伊殿令使者之云云、於大廊下
尚伊等云々。

尾津大納言

右由礼之由居抄云九日漢由倉、之類紙書控等
且由倉意、由礼等、於由白書院西邊奉
尚
元中

一 小業道、女之丹後、洋紙於其之間元中

頂戴、且御中、洋紙物、丹後、伊等書
相渡、

一 大由書、但依於於漢、尚伊等、其席紙、

由書院書

安之伊等書

世故二

辻内花助

石上二、十一日漢由倉、

御紙、之、以、多、射、回、以、下、令、於、由、右、名、書、院、之、御、紙、
伊等、云、云、漢、由、倉、中、御、書、

諸古百段
綿三言把
不納之痛
諸之良
御前御
御前御
編約二十卷

石上京上系

諸千及
時段三

御使
大内
御前
御前
中山

日光石門

藤南

櫻 伽 院

坊友

百里路大進
少府中梅家使

菅田石見

諸攝殿宛

乙葉弟濃
飯田河内
進後造酒

諸百段

法信也

石上京上系
御前御
御前御

二月十六日

一
御前御
御前御

右国河内用相勤以事下台於此右子認全似類
同人中廣之善幸其申時有

詣于段

小宮信方改以
奥村源之助

右国河内用相勤以事下台於此右子認全似類
此乃系持信宗之弟也

詣七段

小宮信方改以
生田大助

門十段

此信同
後中德三郎
源公高平郎
此信同

門七段

依此物之所
吉田文又郎

門十段

此信同
守能探信

門五段

物能探信

門七段

大工探信
小林筑後
清口日向

門七段

此信同
平川助吉郎

右国河内用相勤以事下台於此右子認全似類

諸社及
伊波二

諸社及
伊波二

連新所

里村昌逸

里村玄川

里村昌寅

里村昌成

石部帳分下各社諸獨間伊波二

濱原

日輪寺

芝原

里村信道

芝原

西条若枝

里村山田藏

諸社及

馬場

坂昌永

山田藏部

下谷牛戸社人

上井頼母

石部連新所分下各社諸獨間伊波二
同人所領

二月七日

一今期紅葉山 御宮

御代女房對馬

日夫出の流使信

等 貴院

右例月出の禱出札よりよしく於婦火の禱對馬

但伊豆の後律より自對馬の禱

幸社より

公井大炊氏

榎村後河守

右之増上寺より大輪若氣流居より及び願ひ給も
由名留流居此所相違願書よりお返さる御目間
行直より承候

全書

か記勘定

喰代中女所

右之坂田在立合由用之紙の付下之於願
同同人合後之増上律より承候

一 明中合後時由信指より承候より成文

日時由信指より民部に承候由承浦

御代女房に承候由承浦

二月十日

一今更時、由信指、吹上由在、成吏より
民部、及由屋浦、御之号、花
還御

由名國御

信信

去保上總介

右幸、以、由信、以、合、後、今日、使、名、上、於
檢、同、詞、場、向、去、之、事、也。

由國御

作、本、感、行、派
名、代、年、并、之、事、也

將、友、八、節、使、由、同、附、之、事、也、作、付

右、於、由、同、部、屋、系、控、備、前、之、中、後、之、

二月十九日

御座間

今、田、備、中、也。

幸、往、也、也、

松、年、上、同、附、也。

由、部、定、也、也、

石、川、乃、道、行、也、

右、於、上、也、

孝養院 第二十四回 御覽

時破二
人雲院

今三三
時破二
殿南王院

時破三
京
誓願寺

口
月塚卜年
赤教院

石田院 第一回 御覽

時破二
能村主中

口三
多田院

口二
吉祥院

口
石垣監為

口
光順

口
女進

石田院 第一回 御覽

清木松

門松枝

門西松

長谷川幸吉

三木清盛

小法師 贈見

徳久世丸

門 三木

石田氏 分家 旨於 禊洗間 同人 中 候

二月廿日

一 今朔上野

赤松院柳

御靈石

御願所

御石代 平忌 弟 濃

一 於上野

孝老院 柳 二 于 回 禊 洗 間 法 堂 山 初 日 身

御石代 安 後 對 馬

御石代

赤松院 柳 二 于 回 禊 洗 間 法 堂 山 初 日 身

中條山城

石就海

御石代

一 此臣奉命往河津控操此之家方水戸中將發
より使者を遣ふに於て御賜問詢伊豆也。

一 右内侍河津川之真成也 此殿跡之御用也於
此殿跡席下御問人

一 右内侍河津川右京元於河津御控操御問
御光中

一 右内侍河津川之御問由奉命者也 誠於厚之御
芝草御問御問

二月廿一日

尾法殿使云

成濃人内苑

紀伊殿使云

行時孫云

水戸殿使云

内苑中座

一 右内侍河津川之御問由奉命者也 誠於厚之御
伊豆也。

一 右内侍河津川之御問由奉命者也 誠於厚之御
伊豆也。

新編 於市卷四 扉下 同 人

松平紀俊

松平隠政

松平若狭

右同 於市中 城下 書院 備 中

由後 立 元 出 云々

日光 由 門 跡

由後 立 一 組

石 由 事 一 中 日 出 云々

由後

立 元 出 云々

右 同 於 市中 始 元 相 傳 云々
上 意 一 組 演 云々

二 冊 二 冊

一 於 上 部

孝 恭 院 堀 由 法 多 法 結 願 分

御 名 代 安 房 對 馬 也

由後 白 須 甲 出 云々

日光 由 門 跡

由後 立 一 臺

右因引介今朝也

一 右因引介於家藏海城錄也一家方水戸中將殿の
使多口也於遊過間伊也。

一 右因引介海川也家藏也 家藏海城錄也於

水戸中將下調回人

一 右因引介於家藏海城錄也一家方水戸中將殿の
於厚之間也家藏海城錄也

家藏海城錄
河津系家藏
前の内蔵也

右因引介也

大竹之説

右因引介於遊過間也一家方水戸中將殿の
於厚之間也

二月廿日

一 右因引介於家藏海城錄也一家方水戸中將殿の

使多口也於遊過間伊也。

伊也。

一 右因引介於家藏海城錄也

石之山院事 楓林の分の由物と云ふ事の中
其外。も時辰迄来さず。石為清礼 凌雲院
清心堂より松を奉り別所御開元

一 出立事 楓林の分 御中 御出仕云々

二月廿日

一 於上野

孝老如院 楓林の分 御出仕云々

方始物出仕云々

御出間

御出立院

御出立院

松平右京亮

松平肥後守
松平隠成守
松平若狭守

尾張大納言殿
水戸中納言殿
水戸中將殿

子鏡 由杉戸際

櫻 間

次 次

松平 加賀守

松平 頼朝
松平 興直

大廊下

帝世間

圓 物
惠 流
和 極
交 智
表 言
手 言
向 出

信代 大谷
同 橋子

帝世間 御系
紅葉間 御付

菊 間

房 間

芙蓉 間

宗 合
御世間 御付

房 間
御系 御付
御系 御付
御系 御付
御系 御付
御系 御付
御系 御付
御系 御付

言 記
言 記

由 渡 向 出 渡 人

中ノ間

由奉之書

右於席ノ濁氣中

一 右因ノ紀伊故ノ使名ニ差出シテ於瀨陽ノ間
濁伊等也

八

由奉ノ切書

四領市江馬

由奉ノ切書

由奉ノ切書

晴次高島

由奉ノ切書

口

右元慶ノ綱ノ色沙汰

御出立ノ年号アリトシテ桐劔ノ身由奉ノ切書
由奉ノ切書ノ色沙汰中列テ同ノ人ノ後

日之市ノ治使信

等 貴院

安樂ノ院ニ使信

同 人

由二葉子一書
中一葉一桐

由二葉子一書

石田氏ノ桐劔ノ身由奉ノ切書

白濁中ノ書也

但

御奉書ノ日之市ノ治使信
於奉ノ切書ノ色沙汰中列テ同ノ人ノ後

右之 作身之於瀨瀨間者幸其申其片亦於
備前中戸候へ

一 井伊之部公輔三郎孫守人今日也 城守へ

但明末五日申上列 每夜留子也

一 明末七日申上 瀨瀨間書相後事

二月七日

一 歳之書へ 瀨瀨間書出之家方 始申速松之國持
人名為中願寺松平上候亦 於瀨瀨間之同柳之同

一 備中へ相後一旦使者使信也 是相計事也
一 大納之極へ 守事松平上候出明相後へ

瀨瀨間

尾張大納之候
紀伊中納之候
水戸中納之候
徳川左大臣

柳之同

松平如判事
松平如判事

松平豊後
松平澤山
松平安房
友堂和泉
松平出羽
松平大學
松平紀元
有馬中務
上杉澤山
細川致中

作佐右京
松平七作
家對馬
松平源
伊達
松平上総
松平大膳
松平播磨
南郡大膳
与平頼守

一 井伊玄沙少輔左衛門權守人之日也

城守

二月廿八日

御座間

御座間
御座間
御座間

初
松平石系亮

右 御目見

宗女正姫子

戸田伊和良子

右 御目見

一 今更打取分也御白書院

出御

御座

松平主御殿

去書

去書

御座

黒田甲斐守

日

日

日

12

老花又
浪子代

二束一老

一束一老

12

大村信濃

初言御用
尾張大田之政
年八十五

成瀬之政

年終由

全地院

在末代由

多由字信方

光院

12
高野新入方

實相院

年終由

在末代由

割津内記

清勝日記

頼重代由由司
取書院書

「松平信濃」

由使書

「大河内」

由幼定

「三橋」

松平信濃
由幼定

由幼定

久世丹後

12
幼由

全信
明隆

全信
明隆

12

全信

自序綱目

右年之記打字等 介御

系之八十一
後序勸善書

横山久左衛門

一 尚日為所撰後紀伊叙り後名等為之、
御伊等。

松平大系元

右此礼之松平書院満中列記 御下知州
伊等之撰後、且洋領西之於羽國各頂載、

一 松平之叙以之且曰伊等、人材信濃之
院海叙允中列記改載、且家門叙、
系勸、且石連の、松平、伊等、

系勸、且石連の、松平、伊等、

一 松平信濃、之世丹後、之河内、
洋領西之於羽國各頂載、若年等、
侍在

系之

村上之流右衛門

西九郎

松平信濃、
系之、
西九郎書院若

西九郎書院若

長坂忠七

全三枚
時政二
相成

石川東地は市用紙紙分下分は右子紙
紙散伊豆と中流し若幸と中流紙

石川勘定

今二日

富山九十商

右以り多分と於断通同人中流し立紙
出雲と信託

石川織田年次

日光山門跡

石

孝老院依由法事切紙止進上京出紙後

海島一城 御對紙信紙
作紙

一 井伊之紙補元紙今二日也 紙

二月九日

寺住持

松平周防

時服又

由勘定書

石川左近將監

口三

右之於上野

孝宗院依二平一圓出心出法度是正用相勤以身兼之
於其全玄間允中別於伊豆中戶渡之

諸の故つ、

皇皇若子

守屋 兼十郎
淡田 三之丞

右國司正用相勤以身兼之於其兼之部屋係取
同人中渡之若年矣中渡是

一 雲降の由之方以他川之至初水戸中初級より

山城降之由川控點之由伺之於市之堂正御清間入

一 右國司

御登降之由國司之方 山城降之由相伺之於御

濁間御由尚書居

此尾連取よりハ
海津より渡りし由其之由伺之

皇皇若子

秋山 松之丞
間文 平次郎

相場 幸之助

治の故つ、

物相勤の由
口之故

右之由法書正用相勤の由於其兼之部

一 傳中より其故分今日也 城守

一 井伊之部お桶屋様 御覧人日記 城

町宗院 城と花

- 一 桂授系小石砂 計五
- 一 尺巾大海 計八
- 一 志也りしと石 計六
- 一 志也りしと石 計四
- 一 幅度上白大合巾 計十
- 一 新織奥 計四
- 一 上奥 計一
- 一 奥 計三

- 一 計書さし紙 計一
- 一 丁子 計二

石也海舟の筆言一紙石負上子家来との紙納戸の
桐納

二月晦日

御文庫
絶子十色
論子十友
小織十友

日光由川跡

石也此序
孝宗院極由信事桐納日通一巾一京分由也 城

於 御座間 御對顔
御座間 御對顔
御座間 御對顔
御座間 御對顔

一 今之申別御座間
出御

今之申別御座間
出御

日之申別御座間
出御

小 御座間

日之申別御座間
出御

御座間

右 御座間 御對顔
御座間 御對顔
御座間 御對顔
御座間 御對顔

御座間 御對顔
御座間 御對顔
御座間 御對顔
御座間 御對顔

日之申別御座間
出御

上 御座間

石 御座間
御座間

御座間

御座間

御座間

御座間

御座間

御座間

石於席 巾料 理 弟 一

一 小器 輕物 海依 物 於 巾 白 書 陰 以 於 中 列 之 於 國 裁 一
他 海 幕 亦 於 年 有 細 散 伊 豆 有 相 廣 一

一 御 日 自 之 之 巾 他 質 概 而 摺 依 院 於 括 授 一 間
糸 換 備 者 有 相 廣 一

一 上 所 云 於 洋 依 物 於 巾 右 幕 亦 有 細 散 伊 豆 有 相 廣 一
若 年 亦 有 相 廣 一

他 於 括 授 一 間 御 幕 亦 有 細 散 伊 豆 有 相 廣 一

一 御 衣 出 清 單 為 御 巾 於 據 巾 之 衣 方 水 一 中 符 依 一
使 衣 之 衣 於 於 御 的 則 御 伊 豆 有 一

一 石 因 以 生 滬 川 則 真 變 一 由 據 附 以 於 巾 亦 宜 出 廣 下

御 日 人

一 御 巾 之 務 氣 依 今 日 之 也 一 城

一 明 報 日 如 例 年 月 年 亦 出 任 一

之月御用書

左田伯中

井伊之部少輔

松平周防

酒井同端

小田切玄作

石川氏通

松平石見

新見長門

公事方

出務方

作久間氏系

之月朔日

一 上三ノ為所後成之室方ノ一種一為宛

山城跡を以て方ノ上ノ於中左所廊下御座中。

一 右因氏付

御座極 由因所方ノ一柱一為宛 山城跡を以

て方ノ上ノ於遊獨則御座中と云酒井因時。

日光山ノ流使信

二柱一為

明王院

右因氏付之方ノ上ノ於燒火則御座中。

但

御座極 御守一柱一為之方ノ上ノ於因所御座中
と云酒井因時。

一 當日為所後成之室方ノ中將殿ノ使令之方
出ノ於遊獨則御座中。

一 右因氏付進川ノ真殿ノ 山城跡を以て方ノ上ノ

廊下御座中

一 右因氏付之方ノ家法を以て方ノ上ノ
山城跡を以て方ノ上ノ

夏宮洞院元中

二月二日

内庭能也也
後内庭也也

古之品矣似楊掛也古法也傳江 仰身台
於波之間元中列於傳中 仰身

三北學修子

西南院

時後之

三北學修子

室 積院

字依大也元

刻傳日記

日

日二

古之品矣似楊掛也古法也傳江 仰身台
於波之間元中列於傳中 仰身

中後古回傳中

中後古回傳中
中後古回傳中

初後

初後寺也傳也
千枝前中地也

院後

西洞院也

右今日刻着身之儀

一 明日例年法行礼々

二月二日

一 今日上皇御白書院

出御尾法衣之敷水戸中納言

御對顔松平如實方。漏法松平就衣。松平左近將

左多入深衣大納言松平左近將松平大納言

御同日八平入大納言

後御如例年法行礼爲 法入御

但書以下二回出礼爲 注合

出御之儀松平大納言二回御中法行礼

一 當日爲出御法行礼伊能。使多入深衣。於御獨間

備備申々

一 右日例年法行礼爲 法入御

廊下備備人

一 明日公家儀 出御如例年法行礼

御如々

一 尾法衣今日初出御法行礼

西ノ目録

門

門

門

門

右 御目録之家被落

十北一巻

西ノ目録

小林治部少輔

二系ノ目録

西村東市正

一系ノ目録

保田孝和

道ノ目録

山科筑前守

九條中納言

信濃中納言

白土内侍

右 言ノ家被落

西ノ目録

門

西ノ目録

近衛中納言

千種中納言

西洞院宰相

右 言ノ家被落

西ノ目録

御向板

新家方使者

由會...
口

幼修等...
口

立入...
口

漢城...
口

千...
口

福井...
口

細谷...
口

樂人...
口

安倍...
口

由冠...
口

本村...
口

由島...
口

杉本...
口

由東...
口

本村...
口

右 御...
口

帝...
口

吉...
口

江...
口

由會...
口

右 御...
口

入...
口

一 勅...
口

由...
口

由...
口

帝繼問

西渡行人名

右明公御元 御對顔面味以忍悦中より湯元中

御書院湯

湯治

帝繼問

西渡行人名

右明公御元 御對元中此令御能也 御對りる也

城見物り根元中列在御中より御

但湯治より列在る也

一 湯元 湯元為何御能也此方水令御能より

使名は元中より湯元問湯元人

一 右明公御元 御對元中此令御能也 御對りる也

湯元人

御使

勅使
院使

六角之殿隊

右 御對元中此令御能也 御對りる也

口

勅使
院使

有馬之部右補

右明公御元 御對元中此令御能也 御對りる也

見物り根元中列在御中より御

由使司方申書

尾張大納言殿

口 近江淡路

水戸中納言殿

口 口 口

水戸中將殿

右様又目立の元由致し申能は 仰付申上

城由見揚し申上 仰付申上

一 右為清少礼尾使致水戸殿水戸中將殿 使司申上
於御濁川御由目付

但水戸殿より申上致し申上
上使司下由礼に申上

由小倉

由小倉

小池定八

右に 仰付申上於燒火間着奉申上申上并申上於小池

尸候

一 明石公家より申上申上御能申上向申上申上

仰付

由小倉

由小倉

由小倉

近江淡路

由小倉

水戸中將殿

由小倉

水戸中將殿

石之宮戸田幸作と松柳之門納

大納言柳上之是並然上之分

由方月保

口

口

由方月保

由方月保

今之百七

由方月保

由方月保

口

西洞院白殿

二条丸大信殿

一条丸大信殿

近衛基房殿

九條中納言中殿

由方月保

由方月保

由方月保

千代中納言

西洞院白殿

二条丸大信殿

由方月保

石之納言由方月保

御座格

由方月保

水引子把

由方月保

水引子把

今之百七

由方月保

由方月保

西洞院白殿

二条丸大信殿

由方月保

九條中納言中殿

由方月保

由方月保

純貴、之友

門

純俊、二子也

淑姫、君柳。

（純俊、之友）

今、之百足

二箱、一若

敦、之助柳。

拾娘、君柳。

（純俊、一若）

今、之百足

二箱、一若

幼少、守之、酒之

子、叔、和、中、納、之

西、洞、院、守、宰相

通、國、前、家、大、納、言

出、也、文、由、之、方

在、別、方、大、納、言

通、國、前、家、大、納、言

出、也、文、由、之、方

在、別、方、大、納、言

石、於、柳、之、洞、納、言、大、納、言、同、時、也。

之、月、日

一、初、使、院、使、中、池、之、御、能、也、
御、分

水、中、納、言、殿、水、中、將、及、始、通、法、中、權、行、大、名、同、嫡、子

言、家、法、元、中、奉、之、業、第、一、則、御、教、法、石、好、子、之、法、印

法、服、之、殿、中、御、也、
言、見、物、也、
御、分、之、名、見、物、也、

席上巻之

一 今此打字は分りて大席間也

出御尾法衣之殿水戸中納言殿水戸中將殿

御對顔早之由間之由御降子元中宣之由次間

御對顔早之由間之由御降子元中宣之由次間

御對顔早之由間之由御降子元中宣之由次間

御能知司之由御降子元中宣之由次間

一 御能知司之由御降子元中宣之由次間

御能知

御能知

仁生

御能知

御能知 市前 市前

御能知

御能知

御能知

御能知

御能知 市前 市前

御能知

御能知

西行梅 七多入
九節系 北宮
新九節 古

馬塚 十五入
平之節 九節
法天節 小八節

祝言 二十節
七入節 七入節
久八節

一 御儀之書之要御座書之云々
御中合於席之清飲食之清料

御八回書院由下候

御儀等之書之
千枝若中納之
西内院中納

竹間

尾張大納之飲
水戸中納之飲
水戸中將飲

柳間

出書院之石同候
厚同法同候
着之同法同候
同候
出書院
名出并 同法
山内 同法

中間
一 唐風仕切

酒法

中一問

抄一問

獲漢問

右抄席一法卷通并中抄記一節

一御能相保尾進致水戸致水戸中將致公八朝

御對顏其外由抄同公一氣一問 御同具幸白

七書 入御

一公取元退致之致致上問之充中送之由書美

一之之由由礼致上問致依得充中

一尾進致水戸致水戸中將致由退致之致抄作書院

一書和名板紙由礼等謝一得充中

大廣同問

抄一問

漏法

抄一問

漏法

此處席其外

房一問

中卷之書

其書同問致人

抄家方便之

家司

芝草間綴敷

厚之間信

中之間

中奏之者

右座席へ御能見物へ由礼申上りて御元中

一 由表 出御由何御探知仰致る使方と云々

於柳之間小座席下御御申上

一 右座より御能見物へ由礼申上り 御探知仰致る使方と云々

於由座小座席下御御人

由使方と云々

西園寺と云々

大座席へ御能見物へ由礼申上り

二月六日

薙之間

御能見物へ由礼申上り

御能見物へ由礼申上り

御能見物へ由礼申上り

御能見物へ由礼申上り

大座席御能見物

一、公外元退教、高、大、廣、間、之、間、之、元、中、道、

中、皇、院、皇、親、皇、子、孫、

帝、世、間、御、教、

右、御、返、言、胡、麻、公、子、孫、上、了、御、允、中、

御、返、言、二、枚

口

口

高、白、院、御、使、者

小林、治、部、少、輔

二、系、九、名、御、使、者

西、村、東、市、正

一、系、五、名、御、使、者

保、田、土、遠、守

近、衛、家、長、御、使、者

山、神、元、宗

九、條、中、納、言、御、使、者

仁、德、小、治、淡、路、守

勅、修、寺、皇、親、皇、子、孫

立、入、左、右

淡、城、隼、人

三、種、中、納、言、御、使、者

福、井、孝、波

細、谷、典、昭

右、白、之、御、使、者

近、衛、家、長、御、使、者

樂、人、御、使、者

安、倍、加、賀、守

口

口

口

口

口

口

御、返、言、二

御、返、言

浪平殿

正冠作

本村紀後

西島柳三作

杉本英作

西末彦作

尾村淡路

口

口

右田飛舟下台松柳同傳中より後

但重司殿後より九條殿後より三書相傳

御座御り

三書相傳

山科筑前守

浪平殿
御座御り
口之三枚

右田氏身下台松柳同傳中より後

一 御座御り下台松柳同傳中より後

使者より出に於御座御り同傳中より

一 右田氏身下台松柳同傳中より後

下御座御り

正冠作

本村紀後

口

杉本英作

口

尾村淡路

口六

右田氏身下台松柳同傳中より後

御座御り下台松柳同傳中より後

二月八日

一 今朝上院

後明院極 御英之旨

御名代 松平伊豆守

一 由同所

蓮光院極 御英之旨

御名代 高井光澤

由北出御書

永見伊豆守

右 大坂御書代 江原久世丹後守 高札代 伊豆守

後 出書 松平伊豆守 永見伊豆守

渡

表出書 伊豆守

伊豆守 伊豆守

会林 永見伊豆守

表出書

里見 永見伊豆守

守屋 永見伊豆守

山中 永見伊豆守

永見伊豆守

永見伊豆守

永見伊豆守

永見伊豆守

永見伊豆守

口之投?

河平年人
字多松次前
过 色名前
去回 出十前

口之投?

西凡去奥子

色山 去六前
山 色 十 前
三宅 色 十 前
平 色 又 前

古之曾見記字奥子相勤以多以下与松尾席中
P 後 色 年 号 中 西 九 去 均 在

口之投?

奥奥子

中山 色 前

口之投?

口之投?

中山 色 前

右回 色 前 奥 子 前

二月九日

一 於奥海能之 允中 出 明 色 年 号 中 西 九 去
見物 色 前 奥 子 前

一 今 色 前 奥 子 前

入 色 前 奥 子 前

夜河芳我

三郎
基太郎

乱

室
子
九郎
少
市

二月十日

一月五日 漢秋之林ノ字以勤

但伊豆ノ市持坊ノ字以勤

田原

田原

淑姫毛由田原

中沢新七郎

右ノ御身ノ於持坊ノ字以勤ノ中ノ御身ノ伊豆ノ市持坊ノ字以勤

淑

一月五日 紀伊中納言系房ノ出礼共ノ御身ノ出礼

二月十日

御身

御身一
御身十
御身二十

紀伊中納言

右ノ御身ノ系房ノ出礼共ノ御身ノ出礼

尾張中納言

大正... 紀伊... 水戸中將殿

水戸中將殿

石岡... 津田

松平... 津田

西丸... 津田

百人...

津田山城

右於... 津田

一今... 津田

出御

紀伊...

淡色之水

楊...

下條...

芦川...

池田...

海...

津田

津田

口

口

口

日

山平九之清

以村谷八流

栢中織部

下條保左衛門

池子代

日

清勝

以手平之の清勝

中見保左衛門

水見保左衛門

人後取

初御見

由小御

沢 為次郎

池子代

入御

山吹間

家督 一回清礼

初 一回御見

入御 御威席下

由濱口内

家督御見

西九由小御

酒井但馬守

池子代

右平白打守

御

一 尾田殿 伊殿 水戸殿 水戸中殿 伊礼 市居 女

御封 教 伊礼 市居 女 於 水白書院 西條 教 濁

乞中

紀伊殿侍

水部丞

右近衛少輔

御座極上

一 御座極上

御座極上

尾張殿侍

水部丞

右近衛少輔

御座極上

一 右近衛少輔

御座極上

御座極上

水部丞

尾張殿侍

右近衛少輔

一 御座極上

御座極上

御座極上

二月十二日

一人朝増上寺

信信院板

御霊衣

御衣代安後對

龜井隠次
山内孫次郎

右勅使院使今朝為御衣代出御中
帝遊同謁至中

西九由屋系御衣代

同日所
御衣代

井上元七

右之 御衣代於燒火之間若年所中西九由屋系
井上之御衣代

二月十二日

一人御衣代

御衣代御衣代

一人御衣代御衣代

一人御衣代

御衣代御衣代

一人御衣代御衣代

海部

此北紀書以

北紀書

石組中由川流之古松帝壇間先中列在備中
P流之若幸亦中備有

北紀書

松平豊後

石組中備有同人等書相續

北紀書

松平豊後

北紀書
二平

石組中備有同人等書相續

一 青木中備有同人等書相續 城

北紀書

北紀書

北紀書

北紀書

北紀書

石組中備有同人等書相續

一 青木中備有同人等書相續

一 青木中備有同人等書相續

三月十日

一今日午前御白書院

案下一同為 請

此一回由礼為 禮儀於廊下帝禮間傳申

由島下

所服

松平豊後

系屏

松平右京左

御印把
金代

口

松平及松門作

御服下

御分下 諸君在御座後
由下侍仕白口

上杉澤正入御

娘盛岡由礼

松平日向

是礼二

将盛岡由礼

朽木通治

口

由助力等送由礼

有之同白殿使

小林治部少輔

由島下

由盛岡由礼

山王列由

御理院松平信

一由一由

系上

三月十日

二本二卷

一本一卷

口

一本一卷

口

二卷二本

寶光院

由修後山院
山門總代

蓮華院

碩學山院
之申字修子

天徳院

由列南成山院
老有修後山院
後山院

津梁院

口
宝樹院

幼云院

由平山院
山門總代

市田幼解由

由修後山院

由修後山院
由修後山院

由修後山院

中川花澤山院

由修後山院
由修後山院

由修後山院

太保山院

由修後山院
由修後山院

之上同様由

今之校書

今之校書

今之校書

一書一冊

廣一冊

廣一冊

甲子年...

甲子年...

甲子年...

甲子年...

甲子年...

甲子年...

甲子年...

甲子年...

甲子年...

甲子年...

甲子年...

甲子年...

甲子年...

甲子年...

甲子年...

甲子年...

甲子年...

甲子年...

甲子年...

甲子年...

甲子年...

甲子年...

甲子年...

甲子年...

甲子年...

甲子年...

甲子年...

甲子年...

二月十六日

田國順改
依事申渡河津

田國順改
平井寺阿比

右 仰付方後由右方某部... 申到方浦中...
中 渡之 若幸中 中 侍方

今之取
明腹二枚

田國順改
勝 与 八所

右 田國公助... 申到... 伊豆...
中 渡之 京拾部... 侍方

進上取上書

田村武吉(改)

田國順改
依事申渡河津

田國順改

在 彦

右 先 渡河津... 申到... 伊豆...
在 彦... 申到... 伊豆...
侍方

田國順改

田村武吉(改)

右 幸 幸... 申到... 伊豆...
若幸中 申到... 伊豆...
侍方

一 若幸中 申到... 伊豆...
城 彦

二月十七日

一 今朝紅葉山 御家

御石代安方殿

一 今朝時 清法塔を吹上座に之為 成太の
上質

日美山院使僧

明王院

右例月由の禱札 是より於境方 則禱中

三

入江中野の娘

伊豆の平

山

雅次所懸

池田之座

伊豆の平

父雅次所方上門左衛

松平左衛門尉

長年志保保佐

古井之座

長年志保保佐

實父山城方上門左衛

長年志保保佐

日

水野六左衛

長年志保保佐

伊豆の平

父日向方より北重

石類の進退を婚嫁の勢に依りて
書院に懸けりて、事書院に依りて

北重

近及重藏

今載
時辰二

石類を比ぶる由用は、
伊豆の事、伊豆の事、伊豆の事、伊豆の事

北重

平井專行

石類の中、
云々の補中依りて

一 明中、
成山、

成山、

一 芳、
城、

二月十日

一 今、
成、

成、

此、

第一回

奇合

生泊 登
名作 杉平 早虫

同 鞍台

小島 徳
字如 三 波 三 五 七

小尾 保 彦 三
三 郎 一 郎 井 子 切

同 松 久 前

同 森 川 徳 三 郎

長 田 五 郎 八 郎
名 作 吉 竹 八 郎 三 郎

同 三 谷 三 郎

同

同 田 中 精 三 郎

大 野 五 郎 三 郎
名 作 松 波 五 郎 三 郎

同 岩 久 三 郎

同 宇 野 三 郎 三 郎

山 田 十 郎 三 郎
名 作 服 部 三 郎 三 郎

同 大 台

同

同 濱 三 郎 十 郎 三 郎

栢 地 三 郎 三 郎
名 作 三 郎 又 三 郎

同 水 馬

甲原勤著
松平定直公伝

素行 孝之徳
名代 柳永乙云
字子忠成

同 小百流

小字 河村大守不記

上村 仁房
名代 若原 智之房

同 傳次房

同 字 宝 ちんちん ちんちん 不記

吉田 月仙
名代 小野 貞吉

同 月 限

石類 母 徳居 江 仰 賢 之 棟 造 不 重 名 中
列 文 備 中 之 中 流 之 若 幸 兵 中 傳 房

激 濁 同

河 原 謙 忠 房 著

名 村 忠 彦

名 代 宮 内 忠 房

同 忠 次 房

小 字 山 口 勤 彦 房 著

中 村 孝 次 房

名 代 若 原 忠 房

同 傳 次 房

如 文 解
河 原 謙 忠 房 著

右同門之各同人ノ名

上杉澤正太郎家来

長尾桂四郎

大石貞昭

酒田多伸

三橋平九郎

源田島門

志岩若石

諸平叔
時辰之羽織

諸平叔
時辰之羽織

門

門

門

諸平叔
時辰之羽織

門

諸平叔
時辰之羽織

門

諸平叔
時辰之羽織

諸平叔
時辰之羽織

諸平叔
時辰之羽織

元ノ

大竹貞市

子坂忠房

行山十兵衛

山田要人

杉原玄蕃

大肥長兵衛

池永系助

副官

元ノ
近友武臣也

石山崩山門詔堂社由修後由傳由用相勤公身
以下方於梅之間伊豆と中江邊

一 明十九日西園寺宗大后

御對教分表向口付梅と吉と 作部

一 青山中御病軀候今早也 城

佐為教

御 雜子二后

服

雜子二后

口 一后

口 二后

口 一后

京於伯和也

高井花澤也

今保豊也

龜井後河也

二月十九日

一 西園寺宗大后

御對願分湯法由傳代大名之家法元由奏去番也
城

一 今了軍中守旦り御白書院

出御

西園寺之末代
其為十

御代也

西園寺之末代

右出左松沙上殿

御對顔之者如披露之退去也

御向板家

西園寺之末代

痛子

芦田下伝也
西村勅解申判也

右 御圓貝由卷之者披露之早由間由披露

之者此次間由披露之者之代也

御圓貝之九上守也

入御

一 西園寺之末代退教之代入廣間之間之者申道

御代也
紅白沙後也

西園寺之末代

右之世末上之松柳之間之者より由之者由披露

他
右細之由之者由之代也其末上之由細戸也

一 御代也此代の御代披露也之由の由申將也之使也

之者由之松柳間明御代也

一 右因り御代也其代也 此代御代也其代也

廊下御代人

時辰二

高田白使

小幡治部少輔

時辰三

山口忠行

達華院

時辰四

三浦重信

天徳院

右近衛少将左近衛柳下同回人下候

奥品柳下

赤藏守

諸十段
時辰二

右近衛少将左近衛柳下同回人下候

御使末田行徳

西園寺公成

右 御封願柳下少将下候

心月日

松平右京亮

右明日為夜分松平同回人中列在書

一 松平書院曲例初由是道一松平少将行間

御來下 御下知所他文書書中列在書中
相成之

左記勅書

左記勅書見書

花田右衛門

右記 御身在極濃濁間因ハハ後

日光出御使信

明王院

中同極前一桶

右記 乃上之極濃濁間因ハハ後

一 御身在極濃濁間因ハハ後 威公事字子記 乃上之極濃濁間因ハハ後

二二二

一 今御身在極濃濁間因ハハ後 威公事字子記 乃上之極濃濁間因ハハ後

松平下總守

右記 乃上之極濃濁間因ハハ後 威公事字子記 乃上之極濃濁間因ハハ後

左記勅書見書

三三三

右記 乃上之極濃濁間因ハハ後 威公事字子記 乃上之極濃濁間因ハハ後

諸之
綿之
大綱
諸之

右海治之由
浪投投宛之

四
十

右以以
御之

此
物
多

御
雜
子
十
福

上使
大綱
上使
大綱

西園
子
之
志
大綱

上使
河
大綱

同
人

協

雜
子
四
福

上
之
福

雜
子
二
福

二
福

二
福

二
福

二
福

二
福

二
福

二
福

堀
田
孫
傳
之

年
益
弟
濃
之

益
部
因
情
之

蛇
川
桓
換
之

由
小
水
之

林
肥
後
之

由
小
水
之

久
保
日
向
之

内
後
周
防
之

由
小
水
之

高
村
丹
後
之

西九中納戸

曾根浦之筋

小倉屋位但

新編後行の巻記

茂州之九巻

右圖の巻は柳之岡南に遊散及む哉及苑之下
是の世に身が死にたる事松平因之取致
但收録西之巻は作れり也

二月廿二日

敬申之別紙

二月廿二日

一今朝上機

孝養院様

津重之巻

御名代堀田松津と

御座間

津波巻

火渡巻

室賀之庫

百人組之巻

津田山城之巻

右に津重江

作

今武村

右元書生願之在正行

冲光且幸其以之久、相勤以爲由書其下台於

畢右等証書海款元中別元備中より候之

申書切書改

乙情字書

谷代水書台書

上役
右并方改改
右本因改

増上寺方丈

右元書生願之在正行 仰付台之 仰出台

此書

二月廿二日

度
右并中書
安房對

水戸中納言殿

水戸中將殿

右元水戸中將殿書後、由留子水戸中納言之海

中將殿出嫡子之、後生、人、胡、之、右、由、礼

水戸殿中納言中、城、於、由、白、書、院、西、御、款、謁

元中

尾張家元

山、池、漢、治、書

紀伊初使

渡る之水

水戸中務初使紀伊
水戸初使紀伊
紀伊初使紀伊

石狩初使紀伊

尾津初使紀伊

成瀬年人

水戸初使紀伊
水戸初使紀伊
紀伊初使紀伊

右様同席列在初席同人書付相渡

一 水戸初使紀伊

水戸初使紀伊
水戸初使紀伊
紀伊初使紀伊

尾津

成瀬

水戸初使紀伊

一 水戸初使紀伊

水戸初使紀伊

一 水戸初使紀伊

使者は先出に於遊園に謁す

一 今早時、由伊指と二九と為、威丈と二九
中玄、関洞門を西丸と為、成

三月廿一日

同部若狭也

右、高園寺、安芸、今朝、安芸、中
城、於、帝、遊、園、謁、中

三月廿七日

細川、中、使者

出、田、代、馬

予、親、至

右、宿、次、を、衣、由、着、一、露、洋、紙、一、乃、由、礼、者、上、に、お
務、一、同、謁、塔、田、去、る、也

但、傳、中、由、用、之、一、由、奏、之、也、若、況

三月廿八日

八歳

諸十枚

今三三枚

諸七枚

今三三枚

此勘定

関川店

此勘定

此勘定

中村

小三三枚

杉浦

松浦

此勘定

馬場

此勘定

市川

市川

市川

市川

此勘定

市川

此勘定

市川

右同用相勘定

伊豆

諸七枚

諸七枚

諸七枚

諸七枚

此勘定

市川

此勘定

市川

市川

右田氏... 折津... 中...

流給及完

小...

西村...

由...

生田...

由...

石川...

益山...

福...

矢...

中村...

小...

由...

長...

山...

由...

中...

小...

中...

由...

心...

心...

由...

心...

門...

門...

門...

門...

門...

口之叔

由保平古傳次

田中在江島

今保之三弟

三之橋中三前

小善信古傳次

古山文翁

治本信翁

本保川左之前

由保平古傳次

市川子之助

狩野探信

狩野梅刺

狩野安化

口之叔

口之叔

由保平古傳次

狩野洞琳

過内亮彈

小善信古傳次

依田伯春

柏小但馬

由保平古傳次

中村派定

口之叔

石田氏多弟古傳次火之間塔田孫津也戸伝之

由保平古傳次

柳生至悟心

口之叔

右之江島山一詔堂社之別名此稿由菅澤田用
丸坂の身以之旨松芝之各同允申列在結中附後之

全書表

此稿幸すあり

之上同情

右之別名此稿由菅澤田用丸坂の身以之旨松芝之各同允申列在結中附後之

全書表

此稿幸すあり

贈与八前
名代田口右前及高

口又表

此稿幸すあり

石倉敷又前

因以由用相勤以身以之旨松芝之各同允申列在結中附後之

全書表

此稿幸すあり

赤倉四郎及高

口之表

此稿幸すあり

赤林 年十前

因以由用相勤以身以之旨松芝之各同允申列在結中附後之

右之別名此稿由菅澤田用丸坂の身以之旨松芝之各同允申列在結中附後之

全書表

此稿幸すあり

上川井文又前
後及海入之旨

因以由用相勤以身以之旨松芝之各同允申列在結中附後之

口

松本忠及高

全書表

石狩郡内田若年事の中世は在場田振浦と申候

△修由?

出候長?

此修由分

山中大八
増田友四郎

此修由

今井源三
岩田清太郎

此修由修由

河合平次

此修由修由

澤田恒十郎

此修由二二修由分

口之長?

口之長

口之長用相勤の分

口之長

福田守三郎
三橋伊由
山田忠次郎

甲良 筑太

此修由修由

橋井半六郎

此修由

源吉忠九郎

此修由修由

大井善太郎

口之長

同日由用社屋戸表九段目分先
右於横濱一町市橋橋元寺中渡

之家

宮本長門

出子表言中劫入前寺元地之座
願之世劫又而養子之

作身

右於芝草之間先中別於橋中

由先

加皮之書

右火階盜賊改改

御免之右於右寺慈心御敷同今渡

御免

火階改

入清雲八

三友宮内相良富宮内成願之也
年長子之

作身

由使書

公保公前在也

備系之五段目大御又實元之宅常刀
願之世長子之

作身

二九由留書

松村十右衛門

新由若横回大和之但基之病中雖在
精之新法私之世尊其子也 仰身

右冷同席若幸奇中出在場同拾津也中渡

百人組次

小笠原義俊也

由持次

朽木修理

西九由持次

柴田 三右衛門

火渡次

戸田 入道

由是也

水野 盛也

西九由持次

花村 三郎義清

由是也

田村 守而義清

右之由及中 惣領地也打見分也 仰身

山吹同席同拾津也中渡

今之取
時後二

坊中養川院

右之九清致向由防後由給由用相勤也身於奥

之也

一 明致日月並之其其介由此而也

一 井中致也亦補而致也今日也 城也由用者代

堀田松津の由緒

堀田松津の由緒

安房野馬

堀田松津

松平能成

植村俊河

足利肥後

根岸肥後

中川亮輝

菅沼下成

西膳

公事

横田十郎之儀
羽方在左

二月朔日

由使戸田宗女心
右納之儀
由使水龍出御也
御座御
由使中納御也

水戸中納之儀

公之儀
二程子之
右納之儀
御座御
二程子之

水戸中將之儀

同(リ)マ

池川鶴子之儀

公之儀
二程子之
右納之儀
御座御
二程子之

後 祥院之儀

公之儀
右納之儀
御座御
一程子之

右之儀子代殿由事 中將御座御子

御座御

為由後儀今期之儀

御座御

由書
由馬

右 御園見

由順

松平本加賀守

清波智

兵衛

関式部

火僧及

室敷之座法

右於 御前

御前

一 今口守文之御白書院。

出御

系府

松平筑前守

由書
由馬
由書
由馬

由書
由馬
由書
由馬

松平本加賀守

初御園見
日向守

水野本左衛門

由書
由馬

由書
由馬

和 兵 院

由書
由馬

由書
由馬

是 本 常 隆

由書
由馬

山物
日

松平如安の家系

村井又三郎
横山茂人

清勝の子

伊藤
伊藤直行

山本伊豫守

全十段
時辰二

伊次一岡

伊次
本岡坊

基於其子

廣子

日

入海の道 津通の付
御書院の贈り

宗法上の親
由教の宗

伊佐幸源

八幡宮

石平の宗廟

入

松平如安

石平の宗廟

上三意の宗廟

津通

石平の宗廟

於其就... 由松戶... 除調元中... 幸... 家... 門... 派... 牙...

年... 系... 康... 氏... 子... 運... 之... 人... 松... 氏... 對... 馬... 之... 遠... 其... 之...

一 松平... 氏... 系... 康... 氏... 由... 氏... 中... 古... 氏... 中... 十... 於... 同... 所...

調元中

一 中... 伊... 氏... 傳... 之... 遠... 於... 其... 氏... 之... 間... 之... 中... 列... 於... 頂... 款... 之...

一 村井... 又... 系... 橫... 山... 氏... 人... 洋... 氏... 也... 於... 松... 戶... 對... 馬... 之... 戶... 後... 之...

頂款

一 伊... 氏... 傳... 之... 遠... 於... 其... 氏... 之... 間... 之... 中... 列... 於... 同... 人...

戶... 後... 之... 頂... 款... 之... 若... 年... 幸... 中... 伊... 氏... 之...

水... 氏... 傳... 之...

中山... 氏... 傳... 之...

水... 氏... 傳... 之...

伊... 氏... 傳... 之...

同... 氏... 傳... 之...

公... 氏... 傳... 之... 伊... 氏... 傳... 之... 伊... 氏... 傳... 之...

水... 氏... 傳... 之...

秋... 田... 氏... 傳... 之...

公... 氏... 傳... 之... 伊... 氏... 傳... 之... 伊... 氏... 傳... 之...

右... 氏... 傳... 之... 伊... 氏... 傳... 之... 伊... 氏... 傳... 之...

伊... 氏... 傳... 之...

伊... 氏... 傳... 之... 伊... 氏... 傳... 之... 伊... 氏... 傳... 之...

諸君

松平筑前守使

恒川七之

右系府・由礼中

御意極・若上・松檜・同調信・由由・由由・由由

由敷

由敷

竹内

利

作

石字

塔

水

若

今日以上使信祥院及

由

林 孫九

御意極

中將殿

水

由

御意極

鶴子

由

白井

上使名洋从物由礼

由同使名

入公幸及道

御座柳より洋信物由礼

右より出之於御座より御對馬

一井伊之部公情為氣使今日由也 城

四月二日

尾張大徳之致

右由中 城於 御座間

左方柳 御對願早

淑水君柳 御對願相母於奥由及物由御座間

由同人

右より今日 御對願 御座間 上意且

淑水君柳 御對願由食意 由礼事上之於

由白雲書院西縁致御座間

但右より由礼

御座柳より 由礼事上之於

滋陽河内湯田町三丁目

日元寺 御石代
大納言権 御石代

御石代

御石代

三子家

代 戸田傳後
代 大沢下

代 上 山城

代 戸田能也
代 大沢山城

代 如納を江
代 松平系

代 戸田清

右 作分は松平系河内中三子家河内湯田町

渡

一 今分府 由行採ら二九と為 成

三月二日

字家出権 御石代
御石代 御石代
御石代 御石代
御石代 御石代
御石代 御石代

御石代
御石代

御石代

學問出於政道
神聖の條、時、
南、
仲、

學問出於政道
神聖の條、時、
南、
仲、

學問出於政道
神聖の條、時、
南、
仲、

由國分

大、

與、

秋、

西、

白、

水、

水、

學問出於政道
神聖の條、時、
南、
仲、

學問出於政道
神聖の條、時、
南、
仲、

學問出於政道
神聖の條、時、
南、
仲、

由、

田、

二、

河、

由、

山、

由、

增、

軍学...
内...
中...
内切...

右...
室田 主税

学...
御...
中...
内切...

小...
新...
田九新...

石... 作...
中... 著... 中... 九...

端...
由...
河...

右... 人... 勳... 不...

編... 伊... 中...

日...

等 院

右... 為... 出... 出...

白...

但...
御...
口...

一... 明... 為... 為...

大... 作...

石川

一問

永井大和守

与子前守子息

文法賢次郎

中坊河内守

源八前守子息

榎下源右衛門

中坊河内守

与子前守子息

村長玄紹

小石川

石家齋之相違多、在長年申列在野馬中、

若年長中侍

源一問

中坊河内守

与子前守

栗原己之助

石川之長年申列在野馬中、

紅葉山

赤川

赤川

赤川

赤川

赤川

赤川

赤川

赤川

右先重男頼之在陽居之 仰付之皆之胡邊之下
之重合於御通問同今談し仰付在問本

諸君致

荒川中知
後之生名次友舟

右年長の以之之悔念相勤身打由重男下台於
横火間若年長中出之有場田新津中下候し

号合

号合行判書
秋中上之代

久貝忠左衛門

右之 仰付之於常之問御談出之在問本同入下候し

小重信
町田大守記

由之重信子

松本恒次郎

右之 仰付之於横火之出之在問本同入下候し

一 仰中之有候分今日也 城等

一 明之日御場能の力遊等之為 成之天札相之

今之申書之由之門之也 仰出

四月廿日

殿中至別系

一 備中より今日も也 城守

己巳日

一 今時より由信端より西九より為 成合より作出より
天乳相傳由延門より也 作出

一 備中より今日も也 城守

己巳日

一 今時より由信端より西九より為 成

南於法隆寺也

諸お枝

私 名 院

上聖齋社人

叶波二卷

是中 就 後
是中 常 陸

右由信端より由信端より同由信打後河より也

一 備中より今日も也 城守

一 立花出雲守、礼侍人、白紙、城守、

四月八日

一 今朝上院

後河院振 御靈前。

御名付戸田末女正

一 敬宗院殿七回出立法事、身今朝上院後雲院。

御名付白洲甲斐守、白浪松政正侍

一 石岡氏、身為河津御領、出立方水戸中將殿、身使立、
立花出、於御領、同御對馬。

由後中、白紙、

由後中、白紙、

徳川氏、白紙、

由後中、白紙、

一 橋本、白紙、

石出法事、身、白紙、

一 明日、白紙、出立、身、白紙、成、身、出立、身、白紙、
作、出、

一 由中、身、白紙、出立、身、白紙、

一 立花出雲守の送舟女系今日也 城守
但出雲守の弟部之孫息子立花守房の孫也

四月九日

一 今中津淡路守の為 成吉思守の守家
還舟

一 立花出雲守の孫 御家守今日也 城

四月十日

御座間

日夫七日御座間
大納言御座間
二二二

戸田傳後

御座間十日御座間

乙次山城

御座間十日御座間

如納言御座間

松平忠高御座間

今中津
淡路二

御座間御座間

御座間御座間

御座間

右就正帳

御同見

但納後、山城、洋物、於理、同對、
頂戴、
山城、洋物、於理、同對、
頂戴、

一 明日、日、納境、中、為、遊、
成、身、出、席、

お時、
作、

四月十一日

一 今、お時、由、信、
成、身、出、席、

相、分、今、時、七、時、
作、

日、
作、

作、

戸、
作、

由、
作、

お、
作、

松、
作、

右、
作、

佛、
作、

池、
作、

一 佐、
作、

佛、
作、

水戸中將殿使言

齋三

石原玄苑

石原玄九郎出陣門... 於瀨田間

湯田人

御座極多... 於國府湯田...

四月十二日

一 今朝増上寺

信信院縁 御蓮花

御名代 左田中

紅葉火 壬午

壬午 御輝

小山 贈上

御座極多... 於國府湯田...

石原燒火... 間若年...

表出右子

東條 台十郎

西九 表出右子

平 是又 齋

奥出右子...

石原真

御輝

石川光澤

全七枚

石川光澤

中川光澤

石川光澤

横田十郎

石川光澤

石川光澤

石川光澤

濃長城列尾品東海乃前川由重法
由用楓勤の事

石川光澤

石川光澤

時版三

去年濃列路長去外川由重法
中川光澤の事
急水同吏食の事
由用楓勤の事

石川光澤
時版二

全七枚
時版二

石川光澤

石川光澤

石川光澤

濃長城列尾品東海乃前川由重法
由用楓勤の事

全名

同 人

去年津島郡列法水之西百餘里
方丈食之而得其外方場心之用以
元斗方也、有り布り出、其味沙法、
之、

石於由右子、此、
同 名

取動之組

膳屋、
小出、

全名

取動之組

取動之組

伊豆、
今井、
大竹、
中村、
西、
田、
神尾、
小田、
福生、

同 名

諸君の致す

不配勘定

田島忠一市
尾田忠久市
尾田忠久市

三浦新太郎

不配勘定

中村長十郎

不配勘定

和田為右衛門

津島勘次尾島忠海乃市川

市川忠海乃市川

八重子

不配勘定

尾松八重子

不配勘定

石寺八重子

八重子

不配勘定

上野隆子

八重子

尾松八重子

不配勘定

尾松八重子

八重子

不配勘定

野田松之市

八重子

尾松八重子

諸君の教

江戸市南區
名代 諸君の教

東海は武川、由、中、
白村は由、
二、

石於同席伊豆中、

諸君の教

梅中、

諸君の教、
由、
二、

石於同席伊豆中、

諸君の教

小島、
行、
栗田、
小島、
松崎、
梅井、
山本、
北中、
小島、
小川、
小島、

諸君の教

津島郡尾羽東海道節川
此等係所用制動の部なり

諸之投

因所用場廣、商出格お勤

小本島政七
竹内源三郎
西村田五郎
小宮源次郎
杉崎惣三郎
橋井年之助

口め投

間六尾八郎

口

因所用場廣、商出格お勤

石屋年九郎

石松焼火間系、お備衣、お中

内中七尾、お備衣、お中
布、お備衣

此等係所用

小城七八郎

石、お備衣、お中、お備衣、お中、お備衣、お中

上候お備衣

松平阿波

口 松平伊勢守

口 細川執中

口 吉原但馬守

口 立花宗茂

右執事府

一 今七所 由法攝之 二 凡 為 成

口 月 十日

敬 申 之 別 系

一 明 十月 月 並 法 礼 之 系 動 法 礼 之 系

口 月 十日

一 今 口 打 又 分 也 御 白 書 院

但 濟 院 書 院 由 法 攝 中 身 法 濟 白 書 院 由 法 攝 中 身 法

系 府

所 言 一 條
諸 事 一 條
御 事 一 條

松 平 伊 勢 守

物言日一海
綿中十把

物言日一海
綿中十把

綿中十把
全馬代

物言日一海
綿中十把

物言日一海
綿中十把

綿中十把
全馬代

物言日一海
綿中十把

17

物言日一海
綿中十把

17

17

17

糸勤

松平阿波

17

細川越中

17

松平人祐

17

松平出雲守

17

立花元道

17

松平長門守

17

加茂遠江守

17

糸勤

17

中林右衛門

17

九鬼仙次郎

17

伊達若狭守

17

小出信濃守

17

17

九冠式部少輔

17

17

行相之膳心

17

17

伊東掃部少輔

17

17

公掃部少輔

17

17

喜多甲斐守

17

17

小糸頭少輔

17

17

毛利源次

17

17

朽木玄厚助

石相河

増上寺の伝蔵
大傍心之御守

孫會

光明寺

石於 御守

御守の事

入御

松平伊勢守

右邊礼部三居張出礼部上
松平就
由杉戸際
詢先中

日守日清
去次山城

右邊、及以是時、松平同對馬守、
右邊、

一 高日山、松平、同對馬守、
出清、
方水、中將、
松平、

一 右邊、
由松平、

同同人

松浦

松浦

松浦

松浦

松浦

松浦

松浦

松浦

右邊、
由松平、

上使

松平

松平

松平

口

口 戸田宗吉
有馬中務大輔

口

口 口人
上杉澤正入海

諸子十枚
弓矢二十

口 左田信中
佐竹右衛門守

諸子十枚
弓矢十

口 松平伊豆守
伊達重直

諸子十枚
弓矢二十

口 左田信中
松平上総介

諸子十枚
弓矢十

口 板倉月陽守
丹羽右衛門守

口

口 渡辺忠尚
南部大膳大夫

石田信之

作部守直

一 今川了俊 由信孫 由信忠 由信正 由信直 由信忠 由信正 由信直 由信忠 由信正 由信直

二 丸山為成

一 今川了俊 由信孫

清原元春 源朝光 二九山為入

但此見取也真ノ心

四月十七日

由北野津

久世丹後

有痛乳母願也

御覽之方柱也右之

日後之若年令中侍

由北野津

坂本

詰七枚

不之少之是入勤之骨打

一 四月十七日紅葉山

御覽

御覧之方柱也右之

日後之若年令中侍

四月十七日

一 今之御覧之方柱也右之

御覧

御覧之方柱也右之

御覧

由北野津

等 院

右例月出の禊由札

一 遷河以後何事同控塔所立水戸中將殿の使名
之先出に於滋潤以福同人

一 右國の事他同奉與殿分 由故國の事由由在正局下
福同人

一 右國の事大月極同出九日由由事也 城控席
湯流河同情也

一 唯平八品殿の由礼記共外由礼記より
一 井伊之部が情事快身人より也 城控

四月十八日

津波同

由馬 不

由帳

松平忠棟也

一人の由由事子もふ事津河白書院 出津

但津河白書院指津河白書院中津河白書院と為 注

由帳

由馬 不

友堂和泉也

史記 卷之五
史記 卷之五
史記 卷之五
史記 卷之五

史記 卷之五
史記 卷之五
史記 卷之五
史記 卷之五

史記 卷之五
史記 卷之五
史記 卷之五
史記 卷之五
史記 卷之五
史記 卷之五
史記 卷之五
史記 卷之五

史記 卷之五
史記 卷之五
史記 卷之五
史記 卷之五
史記 卷之五
史記 卷之五
史記 卷之五
史記 卷之五

17

17

17

17

17

17

17

老物
不

17

17

17
三

17

17

17
二

老物
二
清子
行

箱
号

毛利伊勢守

瑞澤甲斐守

松平上野守

瑞澤備前守

岩城伊豫守

板倉水佑

南宮左衛門尉

松平維敏次

池田山城守

織田筑前守

如友出雲守

京極左衛門守

八日市藤丸京

系節

上杉後河守

病後也

松浦左衛門守

水戸正徳親王

水戸中納言家光

右列

中山備前守

右軍守

御

松平為使

右列は居州清礼中上ノ格意執事由松平深詢
先中

一 房堂和泉守始由帳ノ内ノ家門ニ依り來年系勤
ノ旨ヲ連ル人松平深詢由書院御取先中列
對馬ノ濱ニ

一 松平為使相馬同格ノ始由帳ノ内ノ家門ニ依り來年系勤
ノ旨ヲ連ル人松平深詢由書院御取先中列
對馬ノ濱ニ

列列同ノ頂戴

一 中山備前守ノ御物於御間對馬ノ出席御取

一 御取 出席御取何州御取御取
使事ノ旨ノ出ノ出席御取

一 右列ノ御取御取御取

席下御取

御取

火事場見立

能辨此札

戸田門

石江 此竹名於第... 高津... 渡...

一 今八時... 西九... 成史...

一 丁吹... 成...

一 備中... 成...

一 井伊... 成...

四月九日

一 日光... 堅... 水...

使... 成...

小... 阿...

西...

長...

口... 成...

一... 成...

系...

石...

西...

石... 成...

新...

源七叔

西九市役所

依田盛三郎

徳島縣列尾品加藤東海及河川
作事法由用桐勤山外等

口之技

同 人

同河川用場廣新到格取勤等

右於因席一京探備等P渡

一 明書日上記

大猷院派

清其宗

公親院派

即其宗宗

清系清等清信瑞

又河之記

作出

一 傳中より高氣岐合身中 城

一 井伊之繁お捕人より中 城等

三日月

河原間

日見十吉 河原
大納言 清石行宗

戸田傳次郎

右内侍中系礼部

加納を以て

松平系麻也

右執事府

御目見

一 今中御門分より公廣間御門に於て御座り上り

大猷院権

御目見

心観院権

御目見

御系詣御座り

還御

一 還御後後河内御門に於て御座り申候御座り

主殿より於御座り御座り

一 右内侍中系御座り

御城附候御座り

席下御座り

一 右内侍中系御座り西九代より御座り

於席に御座り

一 右内侍中系御座り

御座り

一 御座り

御座り

二月廿一日

申出御書

水見伊勢

右之坂御城代江後朝孫内府才於由事書院
漏充中列位也奉若奉中侍所

一 二月廿一日時 申出御書 申出御書 成之御書

公事裁許之 申出御書 申出御書

他天氣相夜中申出御書 申出御書

一 申出御書 申出御書 申出御書

城之

二月廿一日

一 二月廿一日時 申出御書 申出御書 成之御書

申出御書 申出御書 申出御書

申出御書 申出御書 申出御書

一 申出御書 申出御書 申出御書

二月廿一日

一 二月廿一日時 申出御書 申出御書 成之御書

家康公御遺言 遺言御用全補 清之公

御遺言 遺言

一 井伊之部公輔人自也也 城守

御遺言

一 今朝上院

孝老御院様 御遺言

御遺言 立花出雲守

御遺言

日光寺 御遺言

乙次山城守

右執御房 御遺言

御遺言

因口大藏

御遺言

右之公家御遺言 御遺言 御遺言

御遺言 御遺言 御遺言

御遺言

諸君取

口み取

口接取

取付官

大貴、次官、
夏、公、海、大、前、
筆、長、等、之、所

山、田、前、之、所

取付官、味、方、以、以

大、派、新、之、所

取付官

中、川、文、之、所
西、井、安、之、所

口

口み取

右、田、の、取、用、由、此、記、之、也、
相、法、由、身、打、以、身、之、下、分
於、同、席、同、人、之、後、之、後、之、後、之、後、

一、井、田、之、取、用、由、此、記、之、也、
取、用、之、

取、用、之、

松平隠居

右為河津抄地也 城村御用調光由一

但由是書院由屋後中分御用方高

一 井伊之部人今由也 城

四月廿六日

西九島

三又

「此村政」

西九島

伊沢常之助

西九島

宗務所

白井孫次郎

友評

「市田若次郎」

石於燒火間若年事中西九島一火場同新津也

日後

一 井伊之部人今由也 城

心法

及堂和自水也

名河左也入子以

松平浪之也

名河地曰湯助

戸次富壽

名河山内松津也

如及遠江也

石之濱列松平尾列並東海道常川由是也

此因也 作身台於甲申書院海歌之中列之
對馬中流

但同以甲申伊豆並是也松平左衛門右衛門
松平丹波也左也分守書以也 仰也

治七

申勘定御役

松平八右衛門

石之濱之主人 龜井相助也其下台於此石等
部全海歌伊豆也申渡之系於備前也海歌也

一 關中月並也其外流記也

一井伊之於少輔今日也 城守

尾道

紀伊

尾道大納言殿
紀伊中納言殿
水戸中納言殿
水戸中將殿

石月並

出御之儀

出御之儀

備後

石並居月次法礼

出御之儀

一 御白書院

出御松平侍從

御國見

出御之儀

系勤

御守地

松平頼中

御守地

友孝

其冠公
源三行

17

17

晒市連
源三行

源三行
其冠公

之承二色

之承二色

一承一色

一承一色

17

17

源三行

17

松平與之

17

毛利大和

17

源三行

17

織田出雲

源三行

福原能成

源三行

増上寺大僧正

入隆山元

知恩院方丈

長治

大徳寺

知恩院

天光寺

17

保徳院

清勝日記

坂田城代川原

中見伊豫

永見伊豫

奥次一岡

系三

吳服降

系屋家理

向之下二具

入御

化清院書院由院後分正正同次中同相因之間
山吹間更より御席下通御白書院
出御系向清院之記

松平義中

右清院之居所取礼中上之松平義中
湯先中

一 福系能也
頂戴之志字家
人於清院為

清院

右之松平因之間
清院
出清院系向清院同人中

龍二

口

石系勤之流礼高乳牛波多先上之礼務之同
尚去在但馬也

木下之針改

木下漢語

二系一也

坊上等之信心

石須藏多信心之礼

清彦礼之使信者上之礼因所禮由因信之由信
大因記

一 井守之礼少信人之日也也 誠心

四月廿九日

松平右京亮信吉

上落台之司

二系一也

右之大坂清城入相所身为由礼者上之於榜之間

尚對馬也

他也、城かけ尚

大由書

父久之相勤甚之並備也其後信
是也 御禮の信人信及之由出
与由書之由書也 作中由切茶
或百信之由書勤自之由信也
由是之由也

信之由信也
信之由信也

福王 久就

親古久、由書相勤之、上、並、備
出、程、往、日、修、道、御、禮、日、修、
今、心、口、不、出、而、由、書、由、書、入、
之、仲、由、由、切、系、之、百、倍、矣、

由書相勤
御禮日修
今心口不出而由書由書入

早川之通

乙河之通

老坂小一前

明手組

石原四郎忠信

由書相勤

松平修徳

三河富吉

丹波伊藤忠信

孫市前忠信

小幡次郎助

若原伊藤忠信
年人忠信

南條伴六前

大由書

之及由書之也
之而也忠信

大之保源吉

建之由書之也

新之由書之也

小山氏云前

由書相勤

由書相勤
由書相勤

阿部忠次前

明手組
之乃也忠信

親古久、由書相勤之、上、並、備
出、程、往、日、修、道、御、禮、日、修、
今、心、口、不、出、而、由、書、由、書、入、
之、仲、由、由、切、系、之、百、倍、矣、

山崎氏...
山崎氏...
山崎氏...

山崎氏

山崎氏...
山崎氏...

山崎氏

山崎氏...
山崎氏...

山崎氏

山崎氏...
山崎氏...

山崎氏

山崎氏...
山崎氏...

山崎氏

山崎氏

山崎氏...
山崎氏...

山崎氏

山崎氏...
山崎氏...

山崎氏

山崎氏...
山崎氏...

山崎氏

山崎氏

山崎氏...
山崎氏...

山崎氏

山崎氏...
山崎氏...
山崎氏...

親父の由緒を勤王の
御書に記す。今乃口 石出
志由緒。由緒入。作身
取切不之而信定。一
小の由緒。守山新流。一
由切不之而信定。一
勤王の由緒。一

信定記前之位
八高前之位

川勝武之助

永井大和之位
小島之位

手取左兵衛

西九由緒之位
清田由緒之位

小泉永馬

松花之位
勤王由緒之位

守山新流

杉平由緒之位
新八由緒之位

全田良之助

由緒後書

門前由緒之位
原由緒之位

玉虫左兵衛

松平内通之位
新由緒之位

細井勝之助

西九由緒之位
清田由緒之位

大久保幸之助

長谷川由緒之位
原由緒之位

竹中門之丞

山田記後之位
原由緒之位

加藤信八郎

父ノ... 出... 今... 切...

学... 切...

新... 建... 子... 次...

西... 下... 田... 政... 次... 高...

石... 福... 井... 謙... 云...

能... 切... 大... 武... 切... 切...

竹... 杉... 原... 理... 之... 高... 杉... 浦... 友... 馬... 山... 田... 稻... 石... 川... 年... 助...

父久、お勤め候旨
御禮は候へ入、奉旨 至
大由者申書合、御由切
御由候旨、

岩波八節

由網

作福十段

西凡

松平信

一、腕、腕、腕、腕

由腕

大由者

水、水、水、水

大由者

之、之、之、之

坂、坂、坂、坂

小、小、小、小

窪、窪、窪、窪

大、大、大、大

板、板、板、板

市、市、市、市

戸、戸、戸、戸

三、三、三、三

北、北、北、北

海、海、海、海

小、小、小、小

親、親、親、親
御、御、御、御
大、大、大、大
由、由、由、由
腕、腕、腕、腕
切、切、切、切
由、由、由、由
切、切、切、切

岩田宗茂

作梅宗之丞

遠見通之丞

山中九郎宗

新元隆之丞

真津知八郎

伊豆政次郎

少

久松忠次郎

岩中源中郎

多賀之丞

小田通之丞

山崎宗元

中津次郎

三浦和重

岩室及一

日根九郎

松中右

西元

長田清次

林清

親王ノ御孫也幼少時
御座り侍り今も
少人御座り侍り
百位也侍り侍り
侍り侍り侍り侍り
侍り侍り侍り侍り
侍り侍り侍り侍り

小林源三郎
御由書成

「林 永六郎

右 仰付各様為一同御取立申出御列位御為
只候一恙幸奇中西九云候也

御取立書成
御用取立書成

西九由書成
御取立書成

青木新十郎

右 仰付各様火間立花出立云々申候

公三郎
御取立
御取立書成
御取立書成
西九由書成

松平加賀丸

公三郎
御取立書成
御取立書成

御取立書成

同人書

石室明日嫁婿お愁し身立候

一 明海日坊寺

有章院様 御取立書成 御取立書成

御取立書成 御取立書成

一 井伊直弼お情入日也 城

四月晦日

一 今又事付

大廣河院御所御覽

増上寺

有章院極

御靈前

御系詣御所

三寺より

還御

一 還御以後如何御所始申事方水等申増殿御使

之出に於御所河御所馬

一 右因り合連川本殿

由協同本殿御所

廊下御同人

一 右因り合連川本殿御所始申事方水等申増殿御使

中 城極席に御福葉丹後

一 右因り合連川本殿御所始申事方水等申増殿御使

御所同分御所源公

増上寺方丈

右因り合連川本殿御所始申事方水等申増殿御使

由白書院御所御福葉丹後

一 井伊之於痛人一日也 城守

一 明神日月華出仕 寺清礼記

八月河内書

戸田宗女正

立花出雲守

吉山下時守

根坂淡路守

駒形大内記

小田切玄佐守

菅沼下能守

松平石見守

公事方

印勝方

松平田宮
野原源八郎

八月朔日

御座間

尾張大納言殿
紀伊中納言殿
水戸中納言殿
水戸中將殿

石川道平印

他濟書院自修後中書院同書札

一今日書院分書御入中書院

出御

聖抄二下

增補書札

松平如實書
名代松平如實書

出次一同

梅葉書札

狩野信川

書子

高田古流

系上

大津勘代

石弓の口武守前

御

一 尚自由院水戸中納言由良守の侍高田古流の
大廊下御寮女心

一 出陣の着宗女心出陣の上由良守の侍高田古流の
今白西丸の由良守の侍見高田古流の侍尾池殿

水戸殿の由良守の侍高田古流の侍高田古流の侍

高田古流

二程一系

高田古流

二程一系

佛守

日吉の口武守前

明王院

右端年一為清の侍高田古流の侍高田古流の侍

高田古流

高田古流の侍高田古流の侍高田古流の侍

由良守の侍高田古流

同 人

安樂の院高田古流

同 人

二程一系

高田古流

二程

二程

右

勅令御酒權頂為御酒權頂上於國席酒同入

御酒權頂上於國席酒同入

公方御上
一 御酒
二 御酒
三 御酒

松平加賀守

右御酒之御酒權頂上於國席酒同入

御酒

御酒權頂上

御酒

松平加賀守

御酒

同 人 事

右御酒之御酒

御酒權頂上於國席酒同入

御酒

一 御酒之御酒權頂上於國席酒同入

御酒

一 御酒之御酒權頂上於國席酒同入

六月二日

一場午、為河津後、一者上之、在右中願寺、
河股武家使者使信上、於上、於大廣間、河津奏
者、當著、中、左中、家、朱、信、之、

一 石田、其、右、之、向、分

大納言、河股部、是、使、信、以、就、上、之、於、叙、上、之、向
中、卷、之、事、由、凡、由、著、之、全、但、馬、之、取、朱、信、之、

河股二卷

口
口

尾追大納言之叙
紀伊中納言之叙
水戸中納言之叙

石田、其、右、之、向、分

公方、御、大納言、極、口

中、城、附、之、事、由、上、之、於、柳、向

渴、對、馬、之、
出、羽、之、

松平、如、加、賀、之、
松平、越、前、之、
松平、豊、後、之、
松平、澤、山、之、
松平、安、藝、之、
松平、出、羽、之、
松平、人、守、之、

松年人知也
 松年讀法也
 松年播磨也
 松年政子代
 松年友三郎
 松年浪人也
 松年出雲也
 松年左衛門
 松年光澤也
 松年他子代

松年上縁介

松年上縁介

右同引為由縁候

公方縁 大納言縁 侍従式主使云々以上一於
同席同引候

一 右同引為由縁候

御座極中云々以上白浪之扱
 以上一於御獨同引由云々以上酒井同席也
 此城附也云々

一 右同引為由縁候

御同新極中云々以上一於御獨同引由云々以上酒井同席也
 以上一於御獨同引由云々以上酒井同席也

一 明之江漢寺法師為所獲之也 成り身
清信抄の事附と云 仰か

一 井伊之類の捕人自も也 職等

九月二日

一 今お尋ね申上るは九月朔日大鳥の
飛渡寺の事と為由申上るは 成セツ井
寺の事と云り 還御

兼一問

中ノ山徳寺
龍溪の事

松平子文節

佐世紀前寺の事
久しと云ふ事

中ノ山十寺

中ノ山徳寺
龍溪の事

八ノ山寺の事

山口郡の事
八ノ山寺の事

中ノ山十寺

中ノ山十寺

内出七条...
山田中督之記

小林保春之記

勘定所...
勘定所...
勘定所...
勘定所...

二宅...
二宅...
二宅...
二宅...

堀内...
堀内...
堀内...
堀内...

市之...
市之...
市之...
市之...

川...
川...
川...
川...

名...
名...
名...
名...

戸田中督...
戸田中督...
戸田中督...
戸田中督...

玄...
玄...
玄...
玄...

丹...
丹...
丹...
丹...

比...
比...
比...
比...

伊...
伊...
伊...
伊...

伊...
伊...
伊...
伊...

比...
比...
比...
比...

伊...
伊...
伊...
伊...

伊...
伊...
伊...
伊...

堀...
堀...
堀...
堀...

右家督...
右家督...
右家督...
右家督...

若...
若...
若...
若...

堀...
堀...
堀...
堀...

堀...
堀...
堀...
堀...

堀...
堀...
堀...
堀...

山...
山...
山...
山...

堀...
堀...
堀...
堀...

堀...
堀...
堀...
堀...

堀...
堀...
堀...
堀...

堀...
堀...
堀...
堀...

堀...
堀...
堀...
堀...

代官官印以流...

松平府司印

本村田兼次郎

由岡關政...

名...

河崎良辰

松坊...

石岡...

支那勸業

今井進三郎

進七叔

石岡大坂酒...

能登...

杉浦...

石岡...

...

石岡...

...

松平...

...

石岡...

...

明王院

石岡...

比叡天皇御國傳

但同引

比叡天皇御國傳
比叡天皇御國傳
比叡天皇御國傳

曲阿甲也力

時後三

長壽

大德寺

右在帳下之於檢之間極村後行也

諸百及
時後十

上夜物也

初恩院方丈

右在帳下之於檢之間極村後行也

比叡

一 明旨於檢上之書行之事裁許

上施中由信於中書時之

但由用者之解也 城之在物

一 井伊之衆之補入之日也

由物敷

御
於
於
於

根

中集

林 紀後

於
百

尾川 道

還御

御
勘
察
御
座

御

御

御

御

御

京極備前守

近衛基隆

右大臣

右大臣

右大臣

右大臣

八月

殿中

一 今月... 御座

成之... 御座

子... 御座

還御

但... 御座

一 明日... 御座

一 井伊之部が浦今日も也 城

六月二日

一 今中書打守守り 御白書院

出御尾港へ納之御紀律中納之殿水戸中納之殿水戸

中納之殿 御對顔 湯信 松平就前 松平伊藤

松平輝元 松平良房 松平良経 松平大輔

御目見 松平大席間

渡御 清中殿 御名度 早水 今也

早水 御次間 御名度 松平礼 御

一 高田山 御家御地 御名度 御

御名度 御家御地 御名度 御

一 上ノ山 御家 御名度 御名度 今日西九

見 御家御地

一 井伊之部が浦が乳岐 今日也 城

右高秋後所如書之 仰付各於世白書院御教
先中列於宋女正日後之若年共中侍在

入侍也件

「夫、流去之節
塔、松之節」

右在暇會之下台於後候間扱扱候御中候之

一 教之助教所高乳若以中女之為叶 今色中列進法
正 仰付各於世白書院御教先中 於中候先中
列於宋女正日後之若年共中侍在

傳信日 上流より流流者以流流の流合、流一、二人間也

由國書より也

一 女書院中候由役人由也 由列也 於中候
清持姫お伺い御先中

一 公之儀 清持姫人今日之日 清持之也
人納之儀も今日一日、清持之也 於中候

一 明持之人今日之日 仰止也 仰也 仰也

今社也

殿取流也

由流也

曲調甲也

右之教、助教出雲并送而用及扱之、作付与於
新番市之酒家女心中候、

右同前

横田十郎之儀

樽屋源八郎

右同前、右同前、立花出雲、

小菅法重

松平漢治

右同前、右同前、同前、

奥田右平

尾崎徳三郎

布衣内公以屋

右同前、右同前、

一 井伊之教、痛忌身人、自中、

他之男、刀之、今、右、別、死、去、

五月八日

一 教、助教、遊、去、身、何、海、控、境、所、之、方、以、一、准、川、之、真、殿、
水戸中將殿、候、名、目、之、方、於、遊、境、同、前、末、女、心、

一 右内山田記方

清登極右後念心相向
於因常滿信向
是此祀前

但尾出題
淑昭志願
也何之

明
清
院
習
席

源
法

葉
間

法
審
院
布
教
正
法
人

厚
間

言
家
法
元

中
間

中
養
志
者

右内山田記方
相向
尚
元
中

一 敦之助叙由牌号

體
門
院
叙
之
由
牌
号
未
別
清
出
推
之
名
也
作
也

一 井伊之助叙由牌号

城
之
也

八月九日

中根内膳

南紀肥前

右經中水引渡之於帝德間充中列家女正
尸後之若年其申傳度

寄合

中根内膳

右於上時

體門院殿西法軍中勤善之 作身合、簡一問
細敷同人尸後之傳度在因之

一 體門院殿今未別傳名棺

上野凌雲院 清葬送

一 德濟院外法本新立、刻名身於神國間充中列在
之於

一 井伊之於、痛忌身今、目也也 城守

八月十日

一 今期上時

常憲院様 御座有。

御代松平伊豆。

一月並、傳報之、林大學以勤之

但對馬、堀田新津島出席

由國分

大、弟、大、次、弟

大御目通之托

御免之、於、新、番、不、希、漏、立、之、礼、出、立、之、事、申、上、候、之

一、井、伊、之、部、少、輔、忌、身、今、日、也、申、上、候、之、事、

八月十一日

申、上、候、事

忌、日、新、八、前

今、武、政

右、濃、州、若、易、尾、及、並、東、海、道、赤、川、之、由、會、信、由、用、相、勤、以、身、申、上、候、於、右、等、部、新、津、島、伊、豆、申、上、候、之、事、堀、田、新、津、島、出席

大、御、目、通

中、坊、河、内、守、紀、伊、直、家

石、川、田、前、之、儀

名、代、中、川、甚、良、高

右帳分下三枚焼火間之元出三言中戸流

一 備中より使者分今日中 城

一 井伊之部が備中 御免分今日中 城

六月十二日

上使渡之書

松平謙政

右帳分下三枚

一 備中より高札分今日中 城

六月十日

一 今期増上書

文昭院様 御書

御代付と備中

一 明中より日蓮の書付其が清札

八月十日

御座間

尾道大納言殿
紀伊中納言殿
水戸中納言殿
水戸中將殿

右月之進

御對顔

右馬頭

松平隠岐守

右左衛門

御同見

湯沼

西丸内儀

小倉儀

南丸内儀

阿部大守

右衛門

御座間

御座間

一人

御白書院

出御

由左内儀
清二十
右内儀

系勤

松平讚岐守

書物

口

由多一
今部
是物

書

水句袋

口

遊福二
二於一

二於一

張子代

由順

初 松平紀伊

同
丹後子

稻葉長門

家譜

小笠原右衛門
名代

病後

由中子

右田孫津

葛城

任公院

使僧

同

若皇子

使僧

在不到

上杉

廣居圖書

今

松平

澤願水馬

自

廣居圖書

清勝之旨

二系七系書

大由書改

建部内通改

清勝之旨

同

与組改

系上

張漢書

治本新書

由納戸持

治本代

押本代

子孫代

二系七系書

与組大由書

同世礼

系上

由代友

塔公文書

御

松平隠

松平漢改

右平

箱書

各目

右平礼之居所由中上以是就成杉戸際
御免申

一 松平氏伊予守領地松平白書院御殿表之中列在左邊
平家宗一子以正平年系勤一高信連中列在左邊

一 稻葉重正守領地松平表宮之間列在右邊
家門以正平年系廣一高信連中列在右邊

表書

松平路次

大系勤一重正
御座極。以使名在上一右邊。以調由白書院御殿
同條

八月十二日

一 靜右田康清御被水戸殿
上。於市產市席下調守女正

前記
御座極。以使名在上一右邊。
大由書。以正平年系勤一高信連中列在左邊

大由書
市務下總司組

深部德之助

右記
以正平年系勤一高信連中列在右邊
同條

洋物等

形酒云

福永内道

大田原常日

右由修下之於瀨崎間同人

瓶柄一箇
二粒一箇

丹羽氏宗更使云

大谷玄庫

右在洲別志身由由礼等上之於松ノ間湯根坂
淡路云

他由是果し之湯

一 明七日紅葉山

御宮並物御霊云 御系諸由由様云

御書

八月十七日

一 今夕御由由様云紅葉山

御宮並物御霊云 御系諸由由様云

大氣御身今夕御由由様云 御書し右身

御書代安為對馬云

日光山 院使信

明王院

右例月出の禱出札之旨上之於燒火之同詣

宋女心

一 御系詣出延川分打同御控壇所之方水戸

中將殿へ使者より於於瀨瀨間詣同人

日光山 院使信

明王院

右ノ説

御系詣以 申度端年、由縁以之、由礼於
系於由水知、公由之、上之於燒火、乃御由局
也、是也、此記、云々

六月十八日

一 於奥海能之、至中、由明、若年、是、中、區、大、云
見、物、云、云、云、云

奥海能地

全五五
落名北
源七前
公堂之前
万名
葛七前

麻布
八石前

服
三前
控平
三山
控九前
信七前

井碓
仁七前

二
二前
控世多
谷七前
市前
新九前
店七前

か
か
海七前

二山
室七前
了七前
九前
小八前
市七前

雷
信七前

鳥
折
少
三前
ゆ
子次前
信七前
店七前

松十小
八三前

石橋
控七前
了七前
三前
信七前
市七前

尚麻
十
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

六月十九日

此初定也

治接取

岩手十商

右之字宜月心未定式外物調動日算下台
於此右字宜在後數伊豆中後之場向新津也
切取

平物二

口

新津支所使

廣居圖書

松平筆使

筆漱水馬

右之字宜月心未定式外物調動日算下台
於此右字宜在後數伊豆中後之場向新津也
切取

平物二

口

口

口

任公院使

小治中務

善子使

前羽少貳

善子使

池上左衛

中平使

中津源使

八幡寺院使

外郎使

日記

藤 祥

右日行多事一立於四席振振談話多時

一 宿中事多快笑自也 城

八月廿日

一 今朝上院

大猷院極

御靈之私

有德院極

御名代松平伊豆守

一 明日一日休養也

御字各 惣河守屋

御系諸君取信據大時

江 御名

一 宿中事多一日也

城

八月廿一日

一 今早打掃早了大席間候 御名諸君取信據大時

御字各

惣河守屋

御系諸君取信據大時

還御

一 還清以後為河津持燈止之宮方水戸中將殿より
使名之先也、於御湯河湯家女正

一 右内侍有徳川則光殿、由城所立之相伺、於
由室中席下御同人

一 右内侍有徳川則光殿、由室中席下御同人
城於席下御河津持燈止之宮方

一 今也所、由室中席下御同人

一 御中、有氣候人、今日、也

六月廿二日

御座間

御座間

百人組長

小笠原宗茂

火消長

酒井内記

百人組長

小笠原宗茂

小笠原宗茂

河津持燈止之宮方

石於 御前 御前

晒代
諸子代

右系勤 由礼高氣 以後云云 於松之間
濁之井 大炊

輪廻二名
二姓一名

南宮 務更使公

桐中 重左衛

右系 新制 名身 由礼 高氣 於國 席 陽 岡 人

但由 名身 之 湯

一 右系 氏 中 坊 河 岡 諸 子 孫 後 於 行 間 允 中 列 記

一 終

高公

戶田 實之丞
田沼 主水

由山 莊 記

堀 又 十 席

坂本 記 前 記

安房 口 古 坊 門

水 井 大 和 記

立 花 八 右

西 丸 市 山 莊 記
津 田 山 莊 記

玉 田 忠 四 席

中細
おるる
おるる
おるる
おるる
おるる

松平忠房

胡合藏

河合大守

梶

中細

有

赤松小次郎

小

松平信隆

押田

水

安

西尾

長

乾

西

本

新

岡

大

物

小

右

守

子

中渡之坊之寺之主人出席

鎌倉
光明寺後院

新田
大光院後院

清原
新寺後院

新田
大光院

清原
膳願寺

增寺後院
大渡

石之他之坊之寺之主人出席
坊之寺之主人出席

由平書院
新田寺
信教寺
坊之寺

小寺
新田寺
追後宮御所

石之坊之寺之主人出席

寺之二

右之坊之寺之主人出席

丹羽氏家史

大光院

一个胡坊之寺

大光院

台院院極
清原寺
清原寺

一人相上

孝宗院取 御買宗

御名代井伊之部小幡

大西宗茂

以建永内通以

後此を以て

右二系と書ゆが細申由書改より由書院に
對馬と稱し間儀中より一席

記伊賀家名

水龍出云云

右高二月於上神

孝宗院御取法事より取を去致分由書真は此の
身書取真宗同御取由中より相儀

取書儀より御取

核 年 志 活

右同取由書真宗より取由細申口扁下口入申由
相儀

大西宗茂
中儀のり

右門下御取法
細申由真宗より

大西宗茂
活字後より

小西宗茂二席

右
御取由書真宗より取由細申口扁下口入申由

中渡

六月廿六日

一 去月十七日先由家礼由舟行他川に去る候

由城下を以て舟中より川上を御下向申上

一 今又申上候由信濃より申上候由

而も是申上候由

上渡候

小

定

由

船

上

福

石 仰付言候由石上申上候由

申上候由

六月廿六日

殿中

松平定綱

松平河津右衛門
孫河津右衛門

九鬼仙次郎

松平浪人
孫松平豊重

維新後

松平悦次郎

孫松平地田

京新

三浦伊勢守
孫三浦有田

小笠原

堀田

山崎孫次郎

庄後

進藤右衛門

庄後

南無阿弥陀仏
上御用

川田右衛門

庄後

庄後

口

松島

小島

小島

東條政之

中島

肥田十郎

中島

松浦大膳

右朝子

列在末女

牧野

下島

酒井与八

入下

松平

水

松平

入下

松平能成

水戸殿分付の書状
對する御札と云々

母方の門下也

松平大納言

常呂藩村

頼入寺

由小細戸

多橋能助殿

小室三郎殿

熊倉源左

松平能成

父小室三郎門下也

由松平能成

高根内膳殿

西九尾島
田舎端御殿

村松一乃殿

松平能成

松平能成

祖父曰く父方の門下也

石坂子婿殿御書状及御札云々

及御書状御札云々

小室三郎

山口勤斎日記

作福江源云

一

治本恒六帝

堀田 格之記

小川 周之帝

戸田 中務之記

村上 之白馬

他 石 何 之 記

稲富 善之帝

武友 又曰帝

清 口 何 之 記

寺尾 次之帝

室 何 之 記

弟 信 之 精 之 助

市川 何 之 記

枝 部 之 部

船 鐵 渡 何 之 記

大 是 宗 之 記

淡 色 平 之 記

系 田 之 記

小 山 何 之 記

津 津 之 記

市 川 何 之 記

右 大 由 若 中 坊 行 内 之 記 若 様 之 記 校 何 之 記

由 入 人 之 記 何 之 記 何 之 記 何 之 記 何 之 記 何 之 記

宋 女 子 之 記

一 伊豆守不備今日也 城守

八月廿八日

一 尚日為由後儀所之方也乃水戸中將殿より候云云
先初に於御間謁言女也

但云云殿中乃合書由何也

一 石岡守申之云云此後元由奏言云云也 城守乃云云

又云云則謁元中

大由書

三本此後云云

全部取

小林云云此後
名代野屋云云

右免書身頼之由書

御免且幸云云之云云之將志頼勤以云云此後云云

云云云云此後云云之云云之御免云云

云云

上由頼云

功徳院

云云云云此後云云之云云之御免云云
中云云此後云云之云云之御免云云

中納言

中納言

平服榮之

中納言

酒井作左衛門

夏國為四郎

田沼之丞

堀又十郎

胡倉織之助

物屋長之丞

古田波之丞

前田要人

久貝忠之丞

西丸
中納言

右近衛
中納言

一 伊豆守 高札使 今中 城

八月廿九日

一 今中 増上寺

有章院 祿 清室之

清名代 安房 對馬

中奥小水

古武信濃也

大學院中流多流大府信濃也
知事日下子也 仰也

中奥

大河内信濃也

伊豆中流多流大府信濃也
及次而流多流大府信濃也 仰也

右に在る者多流大府信濃也

仰也

小水

信濃也

成田信濃也

西丸

右に在る者多流大府信濃也

仰也

中奥

大河内信濃也

信濃也
仰也

中奥

大河内信濃也

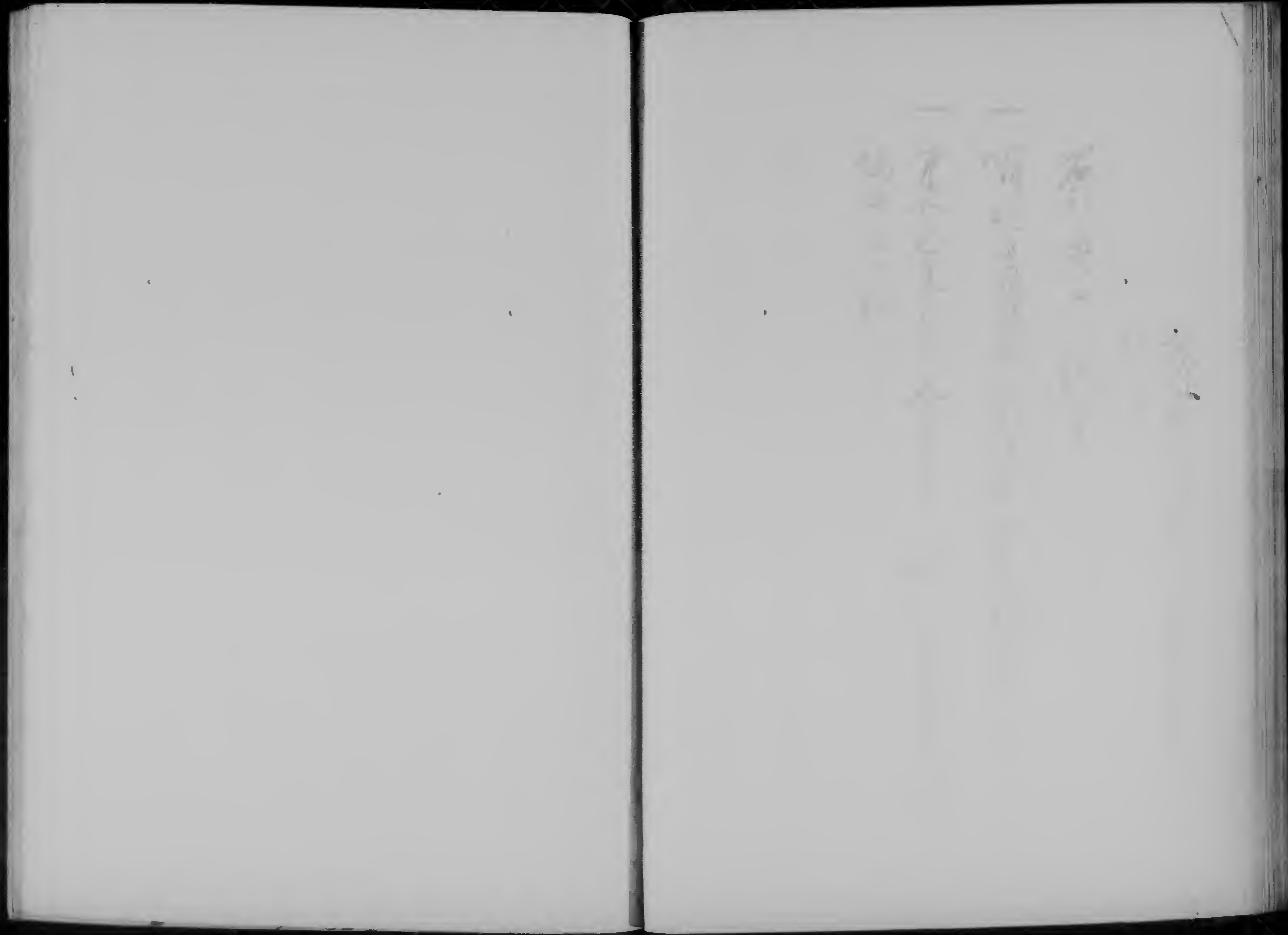
信濃也

坂雅之所收致了母知事是子
作也

右於奥之 作也

一 明日日月並出其外由礼記云

一 宋女正身其外今日也 城卒由用書代
倫中勤



六月清園著

松年停夏力

京路倚衣力

松年能也力

古井大炊氏

曲瀧甲斐力

根岩肥前力

柳里之腦心

古江下也力

正勝方

公事方

淡多之久哉
大塚大次郎

六月廿日

御座間

尾張大納言殿
紀伊中納言殿
水戸中納言殿
水戸中將殿

石月蓮子

御對顔

十八日由京寄書云云
白書院

但白京下月蓮氏一因云云

出清

系勤

津嶋誠中

彦宣下

日光山

前大活活部

大信正

京

白書院

信藏

豫念

光明寺

號弱二第
全馬代

二第二第

一第一第

日

一木一草

日 新日

日光院

日

湯原

膳 願 寺

由 絶 戸 海

系之

由 代 官

福 地 友 口 市

箱 音

古 年 口 海

入 市

日 光 山 院 使 令

古 入 路 治 部 口

由 小 市 治 部 口
三 種 二 品 海

一 石 屋 座 主

宣 下 口 由 礼 卷 上 口 於 院 大 成

由 伊 豆 志 志

由 伊 豆 志 志 磯 子 海

一 石 屋 座 主 由 礼

由 伊 豆 志 志 二 種 一 品 右 使 令 口 於 院 大 成

由 伊 豆 志 志 二 種 一 品 右 使 令 口 於 院 大 成

由 伊 豆 志 志 二 種 一 品

由 海 戶 門

由 伊 豆 志 志 二 種 一 品 右 使 令 口 於 院 大 成

伊 豆 志 志

由小野

石於奥

作

一 津女正今日也

城

由小野

松平公之奥
遠方幸之

六月二日

御座間

由波

火浦
酒井内記

由
水

少人
久松忠次

由
同井持

右於
御

作

由

水
監物

少人

久松忠次

由

同井持

由

阿於

由

馬場

由納戸

秋山源兵衛

大庄善

多門平兵衛

井上求馬

井戸忠兵衛

福清富三郎

坂元政雄

板元友一助

中坊河内守

中坊河内守

中坊河内守

西丸新由書物屋 由書物屋 由書物屋 由書物屋 由書物屋

允中村御堂列注伊豆守中流之若年所中

西丸書物屋

松平忠清之使

大幸百助

加判書物屋三子
千綱一若

右左衛門尉為由礼兵士之被檢問同商人

但書初

一 宋女心入る白丸也 城守

六月二日

晒布十疋
二疋一疋

右之圖詳以右者生為由被先上之於格、圖得伊等、

兼之圖

松平上德外使右

股部猪之進

西丸中御所

久江之宮子惣次

系依源之丞

岩合

物部源之宮子惣次

杉浦他之丞

石河之宮子惣次

河原左衛門之丞

石河左衛門之丞

山中助十郎

日人左衛門之丞

尾丸左衛門之丞

大屋之丞

石河左衛門之丞

源六郎之丞

松平景之丞

伊賀左衛門之丞

日高左衛門之丞

松平源左衛門

松平源左衛門

由井左衛門之丞

松平源左衛門

石河之宮子惣次

江ノ浦

昔江ノ浦にありて
惣八ノ浦と云ふ

一 美 之 尾

淡路江ノ浦にありて

二 今江ノ浦と云ふ

胡比奈小源也

山ノ助江ノ浦にありて

七 今江ノ浦と云ふ

揖斐守大守

名江ノ浦にありて

江ノ浦にありて

八 今江ノ浦と云ふ

中津川

江ノ浦にありて

江ノ浦にありて

小 寺 政 七

名江ノ浦にありて

江ノ浦にありて

江ノ浦にありて

江 之 尾

名江ノ浦にありて

江ノ浦にありて

江ノ浦にありて

大 草 庄 宗

江ノ浦にありて

江ノ浦にありて

岩 田 清 守

名江ノ浦にありて

江ノ浦にありて

熊山節子

山陰直太郎

中階人

氏社江原村

孫三信子忠成

櫻井左太郎

石川賢之親遠之弟直吉先中列位同人

若年宗中侍

遊道間

西尾信成

淡川宗子忠成

矢部中太郎

室賀宗子忠成

小寺宗子忠成

中山門之侍

名代小寺宗子忠成

西尾信成

孫三信子忠成

佐久間又六

西尾信成

孫三信子忠成

福村三太郎

西尾信成

石川賢之親遠之弟直吉先中列位同人

二九六番

城戸三太郎

上使方領高島

松平掃部

石室、父、同、雄、右、死、之、為

御、守、之、為

一 東、女、心、入、白、心、中

城、守、

一 井、伊、之、部、が、情、也、身、入、白、心、中

城、守、

六月旨

中使、若、原、伊、守、

尾、法、大、納、言、殿

皇、尊、二、后

日、石、河、左、衛、門、

紀、伊、中、納、言、殿

日

右、左、心、入、白、心、中、為、清、禮、也、城、守、由、白

書、院、西、條、殿、御、元、中

松、平、越、中、

右、為、何、許、抄、控、也、城、守、御、所、間、清、國、見

中、心、

筒、井、掃、部、

右、御、中、也、清、之、宮、於、該、國、間、伊、守、之、御、守、之、

若、多、子、之、御、守、

一 宋女正高靴使今日也 城
一 井伊之部少備今日也 城

六月六日

由雲門切口番取
王族市人等係

甲府勤番
伊勢守

伊勢守馬二助

日
乙幡守係取
勤番等々々

伊勢守
伊勢守

一 在 伊勢守係取勤番等々々

伊勢守

一 今 伊勢守係取勤番等々々
一 井伊之部少備今日也 城

六月六日

伊勢守

伊勢守

伊勢守
伊勢守
伊勢守

右、南秋人坂の世國傳、行、迄、此、る、不、收、用、之、旨、
於、此、右、字、記、屋、浪、歌、若、年、字、中、記、之、於、事、務、傳、不、
し、修、し、

林 大 字 以

大 納 言 柳 清 門 漢 子 書 出 調 子

奥 田 右 字 伊 呂 波

通 友 右 字 三 郎

大 納 言 柳 清 門 漢 子 書 出 調 子

右、於、奥、之、作、付、し、

一、井、伊、之、於、情、今、自、也、 城、之、

六、月、廿、日

由、音、階、作

山、田、家、系

八、歳、取

右、先、實、足、親、之、於、作、書

御、使、且、年、号、の、是、久、く、相、勤、の、身、由、宿、費、英、之、下、名、
於、此、右、字、記、屋、浪、歌、伊、呂、波、中、記、之、於、事、務、傳、不、
し、修、し、
中、傳、在、

津路三

日光寺門前

前大路沿

右内侍松柳之間國人等書相成洋紙物

二

友光家

内海丸門

松平家

股部

右内侍松柳之間國人等書相成洋紙物

一 采女正名使分今日也

城

一 井伊之部小幡高氣使今日也

城

六月八日

一 小幡之部

後明院極 御

御名代 右内侍

松平家
松平家
松平家

右為河津抄煙火 城於原 間得在中
但相目間取後分原間部席

松平主水正

書之二月

松平主水正

右願之存原七高以正以子之 仰旨控其文之云

之間充中列在伊豆之申候之

一 米女正人白中 城之

六月九日

一人期上申

淨宗院極 御其石

御石代安房對馬也

不申書

新庄後河津領主
次高八郎也

小幡年人

能是術出精之取道
御能計度之云云
与由事也申入云
仰旨切其之旨候云云

右 仰旨各控其間候取充中列在伊豆之
申候之若年実方申候也

由使石河津候

水戸中納言殿

御書之二振

山口人

水戸中將殿

松平白書院

右之世之書一為由礼也

由代宿

堀公文左衛門

西原歌詞水北之書院

上夜安房殿

松平大膳左衛門

右就系序之書

一宋女正人

城之

六月十日

御座間

清波智

西九書院書院

水谷伊勢守

西九書院書院

山田肥後守

西九書院書院

山田肥後守

由出收銀書院

水見伊豫守

市川伊勢守殿
御覽
伊勢守殿

中奥市川

三木伊勢守殿

右於 御覽
御覽

一月五日 謝表
林大學子殿

但坊中
之氣
出
空
之
席

一月十日 系勸
市川伊勢守殿

一月廿五日 系勸
市川伊勢守殿

六月十一日

一人
今日
守
又
分
之
御
白
書
院
出
御

系勸

松平大膳殿

松平和泉守殿

真田典之丞殿

牧野新中殿

松平伯耆守殿

御覽
御覽
御覽
御覽

御覽
御覽

御覽
御覽

御覽
御覽

御覽

御覽
御覽
御覽
御覽

錦三子代

全三子代

全三子代

錦三子代

錦三子代

小笠原氏流

松平丹波

松平伊豆

有馬氏流

秋田信濃

青山大膳

永井日向

西尾陽成

牧野氏流

松平氏流

板倉氏流

三浦志摩

堀氏系

大室伊豫

内友氏流

前田氏流

錦三子代

全三子代

全三子代

錦三子代

全三子代

錦三子代

御手記
全三行

町田伊勢守使

海堤庄

右系勤 出神高札 卷上 松橋南園中庄
甲斐守

但由是出 上湯

御手記
全三行

松平伊賀守

御手記
全三行

西尾隠岐守

御手記
全三行

杉本信濃守

御手記
全三行

増山河内守

口

松平丹後守

口

生駒白旗

口

宮上監也

右系勤 出神高札 卷上 松橋南園中庄
同人

由小御

右松内記
全三行

右系勤 出神高札 卷上 松橋南園中庄

御手記 全三行

一月十二日坊上守

信信院権 御手記 御系諸分取佐掃

おつと云 作

一 東女正人今日也 城

一 信申と名候人今日也 城

六月十二日

一 今も打立手より大廣間御前御座り増上寺

増信院極 御買前 御座前

御系詣御打立分也 還御

一 是御座後為何御控地也 方水戸中得致の
使者は之を御座り於御座御座御座

一 右御座御座御座御座 城御座御座御座

御座御座御座御座

一 右御座御座御座御座 御座御座御座御座

御座御座御座御座御座御座御座御座

一 右御座御座御座御座 御座御座御座御座

御座御座御座御座御座御座御座御座

一 明十二日 濱里 庭... 為... 成... 由... 佐... 抄... 付... 々...
作...

一 明十三日 由... 禮... 其... 外... 由... 行... 元... 々...

一 宋女... 心... 人... 白... 也... 誠... 々...

一 信... 中... 之... 病... 氣... 使... 人... 日... 々... 誠...

六月十一日

一 今... 公... 事... 守... 守... 御... 白... 書... 院... 出... 御...

由... 吸

由... 爲... 行...

酒... 井... 修... 理... 矣

由... 爲... 行...

柳... 系... 式... 部... 大... 痛

由... 爲... 行...

秋... 允... 但... 爲...

由... 爲... 行...

松... 年... 遠... 御...

由... 爲... 行...

真... 羊... 大... 陪... 矣

由... 爲... 行...

戶... 回... 能... 也... 々...

由... 爲... 行...

内... 及... 能... 也... 々...

口
三

口 口 口 口 口 口 口
三

口 口 口 口 口 口
古物本
古物本

口

口

口

細川也門

織田氏道徳

太田系元澤

牧野内膳正

中多伊藤

内多山城

中多豊後

酒井大守

福地信清

河内同膳

折本直江

松平後河

内多友大和

古井能登

古井陽政

河内若狭

津口出雲

内房豊前

井上河内

口

松平之水正

口二

内蔵之殿

口八

淡島之殿

小笠原信濃守

口

松平織部正

口

松平之水

高橋由礼

堀田大將大輔

第青

系唐

尾津信之殿

足也二

志水甲斐守

海國由礼

松平加茂守

八海由二正
二松一為

源氏之守

白分由礼

同

清勝子

家持由礼

松平之守

全三行

初清由礼

公儀之守

公儀之守

全三行

山口
山口

水嶋 日送

山口
二九山
十

松村 松三郎

石納戸持

系上
大橋 政直

加茂 久太郎

小園 第...
仕...

勝 与八郎

岩音

家督
隠居 一因 清礼

初 一因 御見

石平 一因 守 一因

二柱一高

石内 一因 為 出 礼

御座 御座 一因 於 松 一因 御 由 御 由

一因 御 由 御 由 御 由 御 由 御 由 御 由

六月十日

元氣尚健近習

清水筋者多死但次

水之左
松井庄左

右之 仰身流此世若多此全無散元中列列伊皇
中流之若年定中流左

川之習者

清水與向筋者

中今一左為
水此流左為
朝比奈内流助
之系水左為

右之 仰身流此世若多此全無散元中列列伊皇

西九由筋者

西九由筋者

之山左全次

右之 仰身流此世若多此全無散元中列列伊皇
仰身流此世若多此全無散元中列列伊皇

沼津殿

かた勅定

坂中傳之切

右左衛門尉の如く、然由打お勤勞、下名同席
向人、候之、堀田新津村、侍在

一 堀中、例年、月番、礼、云々

一 堀中、今、り、也、城、云々

六月十日

一 今、朝、山、主、云々

清原代、是、部、因、晴、系、派、白、銀、拾、枚、神、代

一 高、月、の、出、立、候、由、之、以、上、水、戸、中、將、包、使、之、差、
出、之、於、堀、邊、因、同、侍、云々

一 右、因、り、傳、連、門、之、具、云々、
堀、邊、傳、共、於、堀、邊、云々

堀、下、同、人

一 右、因、り、傳、之、如、此、語、之、以、由、奉、之、事、也、
堀、邊、美、云、云、同

堀、之、同、詞、云、云

堀、邊、傳、云々

堀、邊、傳、云々

伊豆伊豆

三ノ木伊豆

右組中由之渡之各坊帝禮之間之中列在
伊豆伊豆之若年六分中侍在

一 明十六日見例年高定法門親式

一 御事今日也

六月十六日

一 高定御祝多分口守前入廣間

出御中候 御事

尾高由候

松平筑前守

松平掃部頭

松平清心大納言

松平貞通右衛門

松平安藤守

松平入道守

松平河波守

細川親中守

松平七郎守

湯沼由候

右順、之、以、是、為、所、由、也、子、頂、戴、一、子、之、退、在

松平右京大夫

松平大膳大夫

松平播磨守

松平肥後守

松平越中守

六角就之守

中條山城守

松平大和守

松平後河守

松平伊豆守

戶田宋女正

右田傳中守

安海對馬守

水出出羽守

中多彈正守

堀田大荒太輔

大友式部左輔

戶田右衛門守

宮内長門守

横瀬遠河守

松 久 沢下 龍也

前田 信濃

松 有馬 玄 龍大 補

松 織田 重 中 次

松 中條 河 内 方

松 大 沢 右 衛 門 左 衛 門

松 大 友 因 幡 守

松 六角 且 右 衛 門

松 戸 田 信 俊 守

松 平 武 敏 大 将

松 平 武 敏 大 将

松 平 出 雲 守

有 馬 上 総 介

松 平 貞 房 守

立 花 貞 親 守

松 平 貞 清 守

松 平 中 津 守

阿 部 伊 勢 守

酒 井 雅 樂 守

稻 葉 丹 後 守

松 平 下 総 守

右之人家子也。由宗子頂戴。年服次。同之云々

一同 御目見之云々 入御

一 御内後。廣間。乞申列。在由讓。行人名 此年御目見

外。極。子。石。以。之。交。替。事。合。表。之。云々。及。后。之。間。語。由。奏。

云々。若。兼。之。間。語。由。奏。右。嫡。子。云々。若。兼。之。云々。由。側。元。

由。之。由。之。居。人。由。若。以。諸。者。以。諸。物。以。諸。以。人。法。印。

法。服。之。變。身。也。矣。今。由。若。之。云々。云々。

御。目。見。之。云々。云々。且。西。九。階。之。云々。云々。由。宗。子。

頂戴之

一 右之人家子也。由宗子頂戴。年服次。同之云々

出。御。由。之。云々。云々。本。中。將。之。後。之。云々。云々。云々。

御。目。見。之。云々。云々。

一 右之人家子也。由宗子頂戴。年服次。同之云々

由。其。之。由。席。下。由。同。人。

一 右之人家子也。由宗子頂戴。年服次。同之云々

大。納。之。由。西。拾。揚。之。云々。云々。入。

一 右之人家子也。由宗子頂戴。年服次。同之云々

一

六月廿七日

一 今朝紅雲山 御宮

御代安藤對馬

日光直つ政使傍

等 学院

右例月出、初禱由札、之、乃、上、於、燒、火、同、對、馬、

湯

但月若伊豆、清、操、分、

御代言、之、事、也、

月若代對、之、事、也、

一 傳中、今日、也、 城、

六月十八日

一 右因、身、為、何、所、控、據、由、之、方、以、方、進、川、以、其、致、水、戶、

中、將、殿、也、 由、城、附、之、以、其、事、何、於、由、之、事、也、

湯、伊、豆、也、

一 右因、身、

御、代、安、藤、對、馬、也、 由、城、附、之、以、其、事、何、於、由、之、事、也、

湯、由、伊、豆、也、

但、尾、池、也、

淑、野、天、柳、也、

一 右因、身、湯、伊、豆、也、 湯、伊、豆、也、 湯、伊、豆、也、 城、

席 福光中

東在時二

尾道使役

渡多平九郎

右 若菜上 於 遊 園 以 尚 伊 右 衛 門

甲 光 正 門 院 使 役

小 杉 但 馬 守

安 樂 院 院 使 役

此 中 一 人

同 人

右 署 中 為 何 許 地 地 主 上 於 積 火 為 尚 同 人

此 中 一 人 為 同 席 尚 同 席 尚 同 席 尚 同 席 尚 同 席 尚 同 席

增 幸 大 信 守 使 役

山 家 常

此 中 一 人 為 同 席 尚 同 席 尚 同 席 尚 同 席 尚 同 席

右 同 席 尚 同 席 尚 同 席 尚 同 席 尚 同 席 尚 同 席

此 中 一 人 為 同 席 尚 同 席 尚 同 席 尚 同 席 尚 同 席 尚 同 席

松 平 加 賀 守 使 役

源 貞 守 助

此 中 一 人

右 同 席 尚 同 席 尚 同 席 尚 同 席 尚 同 席 尚 同 席

此 中 一 人

一 等 中 今 日 在 也

城 守

六月十九日

中津

三上流路

除田

三上流路

横田

中津

小塔

西上流路

津内

新屋

新屋

此一

新屋

長川

中津

内上流路

角南

山田

室賀

新屋

小塔

安房

湖屋

新屋

角南

中津

白井

西尾中書院書

後路日記

能助助

水久伊後

小出助

石之進物番出増人之 作分於幕之間

浪歌伊豆より渡り若年寺中侍有

尾津飯使

津田九郎之信

飯沼君様 御食之邊申用向

之儀申上之由申上之由申上之由

此上申上之由申上之由

公義之申上之由申上之由

明日之申上之由申上之由

尾津飯使申上之由申上之由

之由申上之由

右於御邊河内侍伊豆

一石

御意極も清神申上之由申上之由

酒井周膳

海峽之便申上之由申上之由

由回石但次
若德如帝詔

由教分全防

久也云来

下

右之 仰分至松尾席若年宗中此度系松
備系了口候

由小姓

由小御

西尾充之商

西在由小

由小

候回友之助

西在由小御

由小御

天保持十所
玉田忠曰帝

右松奥止 仰分

一 明日日上候

有德院極

御具系

御系訪身由信松

右御子ノ之

仰分

一 值中ノ入ノ日也

城云

六月廿日

一人ノ御打守且ノ大席間流世加馬籠至之上候

有德院極

御靈系

御系訪身也

三守系

還御

一 是日以後為御門於地尾津敷水戸敷水戸

中於殿令使有之在出於滋院測御伊豆也

但紀伊殿由是程之令使有之由是程之出也

一 右内り美入内梅田西在九女其前出書之

也 城於席之湯河新指摩也

一 右内り美入内梅田西在九女其前出書之

續漢之月湯河新指摩也

由使井伊之部師

紀伊中絶之殿

右内り美入内梅田西在九女其前出書之

一 備中々今日也 城也

六月廿一日

一 今令使有之由是程之西凡也 或入河也

還御

但由西凡揚吟一調一管住年未之

由勘定

益田之部師

延七段

石之瀧河の口は石門の北に水梅折の多き所
所用相訪の身下を於石下石下石下石下
石下石下石下石下石下石下石下石下

流下枝

上田の石下

今七五

石下石下石下

石下石下石下石下石下石下石下石下
石下石下石下石下石下石下石下石下

流下枝

石下石下石下

今七五

石下石下石下

一 備中 今七五 城下
石下石下石下石下石下石下石下石下

六月廿二日

石下石下

石下石下

石下石下石下

石下石下石下

由勝物重少

皆川知春

右組中由川渡之方於齋園伊豆中渡之
若年共中侍所

一 松原君揚成乃乳由首中弟之為叶今曉又丑
中別也遊云是花台又空同中同法以人
於中同允中列在伊豆中演在若年共中
侍所

但語曰右乃信語貴次語也語分而之
右同皆川知春

一 右身支空同中同法以人清抄嫁相例於
同席調空同

一 右身

公方振 清卷振人自今日 御空

入納之振人自一日之御空三思此振人 作也

一 右身唱物一人自今日止重陸之弟若年共中
作也

宇社重少

右井人歌氏

石田氏

石田氏日記

石田氏日記
石田氏日記
石田氏日記

石田氏

石田氏日記
石田氏日記

石田氏日記
石田氏日記

石田氏

石田氏日記

石田氏

石田氏日記
石田氏日記

石田氏日記
石田氏日記

石田氏

石田氏日記

石田氏日記
石田氏日記

石田氏日記
石田氏日記

石田氏日記
石田氏日記

井伊去秋補勤

六月廿八日

一 松姫去秋由遊去身為何謂此姫尾迄叙水戸殿
水戸中將殿の使者より出之於遊燭之間遊御事
但紀伊叙由是後中身内也

一 右内り生世同前

御容様。以使名之相伺。於因席湯由之由也
由謝中遊也。

但屋は叙しりハ
叙由は柳もさき何

一 右内り生湯信之家信乃由養老者若若若以
諸物以布衣の由叙令 城於席湯令申

一 松姫去秋由牌号

冲家院柳の之を補名也 作也

一 冲家院柳明廿六日本申別法古檜上野

凌雲院。由舞送之也 作也

一 紀伊叙由也。由男子人知上別遊也

一 傳中身今日也 城

一 右指傳身今日也 城也 由用者 勤

小田原

一 乙用中身尾法殿水戸殿水戸中投殿

由城附身今日也 於市屋山席下湯

伊豆

但紀伊殿中身今日也

一 右因中身今日也

湯屋柳 由城附身今日也 於園端之間

湯屋殿身今日也 曲淵中身今日也

但屋連殿身今日也 湯屋殿身今日也

身今日也

伊東初太席

右指中身

沖家院柳由法事申勤者 伊東初太席

伊東初太席 伊東初太席 伊東初太席

今更なる

分配勘定

岩崎五郎
和田為右衛門

大正十一年國道建設費に於て
和田為右衛門が提出した請願書
地は和田五郎の所有する
和田五郎の所有する
和田五郎の所有する

一 和田五郎の所有する

六月廿八日

一 和田五郎の所有する
和田五郎の所有する
和田五郎の所有する

一 和田五郎の所有する
和田五郎の所有する
和田五郎の所有する

一 和田五郎の所有する
和田五郎の所有する
和田五郎の所有する

一 和田五郎の所有する

和田五郎の所有する

和田五郎の所有する
和田五郎の所有する
和田五郎の所有する

出務重組

上使仁智保祚九節

増上守方丈

右署中為

御尋定之如所禮也

誠於

由白書院細敷詢有為凡急備

奉命

伊东初六節

右之於上飛

冲原院抄法信事申勤著仕血日等之於松葉

之間細敷詢由同封松年回宮

一日先由上京中出曉申 沖原院宿次云

就惟肉之系安樂公院為新糖漬一臺之也

一傳中入之日也 誠云

六月廿九日

紀伊中納言殿

右之由男子也之也廿日

上使以清也 上意是示也男子者氣也

云也廿日

吾亦源八帝
後三年十月三日
八松乙次郎

右 仰身松栢同席 乞中出相 列在回八尸
後 嘉年 申西九 乞 乞 乞

諸君
白老松九

右 仰身松栢同席 乞中出相 列在回八尸

一 朔日 月華 出住 乞 乞 乞 乞 乞

一 傳中 乞 乞 乞 乞 乞 乞 城

